A Clarivate Analytics company

Derwent Data Analyzer
クイックリファレンスガイド

Clarivate Analytics
IP Solutions
January. 2022

目次

概要	1
データインポート	2
サマリ画面	3
マトリクス作成	4
レコードビュー	5
グラフ作成	6-8
データのエクスポート	9
自動出力レポート	10
データセット／レコードの融合	11-12
データクリーニング	13
データを区切る・フレーズ分解	14
グルーピング	15
DWPIを活用した分析	16
自動分類	17-20
出現指標 (Emergence Indicator)	21
年代別分析	22
更新ファイルのダウンロード	23
製品サポート	24

Derwent™

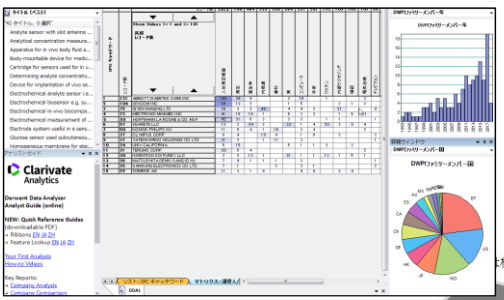
Derwent Data Analyzer

クイック・レファレンス・ガイド1

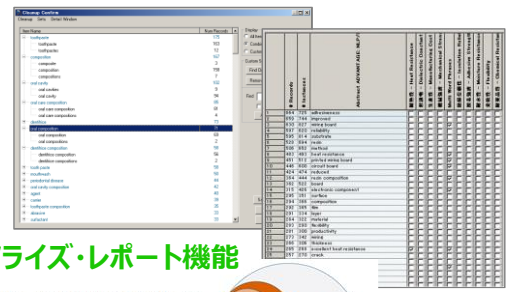
Derwent Data Analyzer (DDA)とは？

Derwent Data Analyzer は様々な角度からデータを分析し、知的財産戦略におけるチャンスとリスクを見極めるための解析ツールです。様々なデータソースからインポートされたデータをクリーニングし、自在な解析が可能です。
また、DDA は、Derwent Innovationの特許データのみならず、Excel、Accessなどのあらゆるタイプのテキスト情報を取り込むことができるので、様々な情報（文献情報、医薬品情報など）をDDA上で融合させることであらゆる角度からの分析も可能にします。

●動的なデータ解析により、飛躍的な解析向上を実現

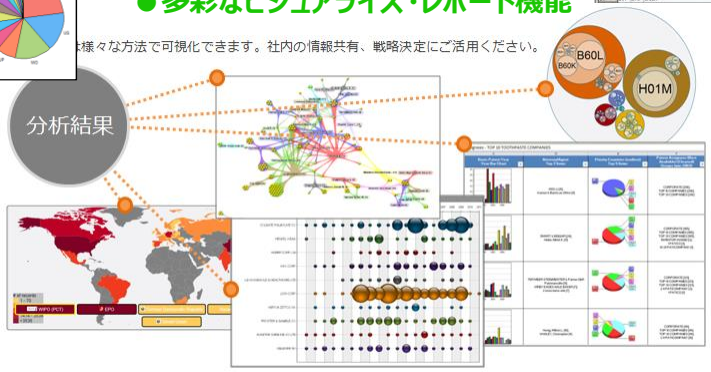


●データクリーニング、グルーピング

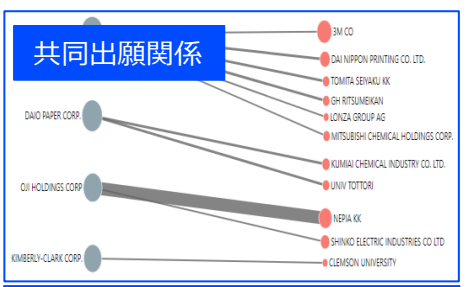


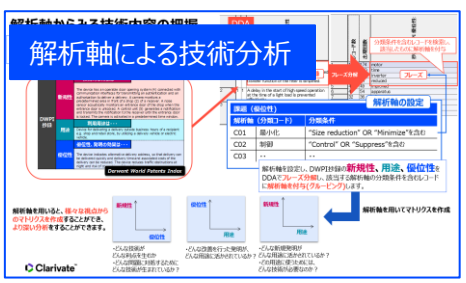
●多彩なビジュアライズ・レポート機能

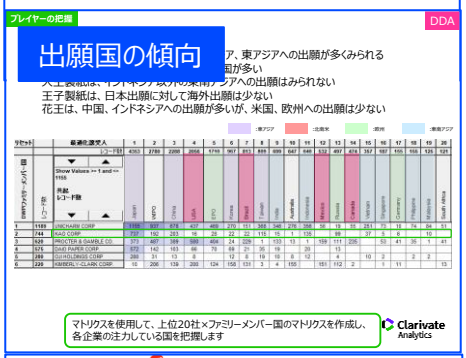
様々な方法で可視化できます。社内の情報共有、戦略決定にご活用ください。

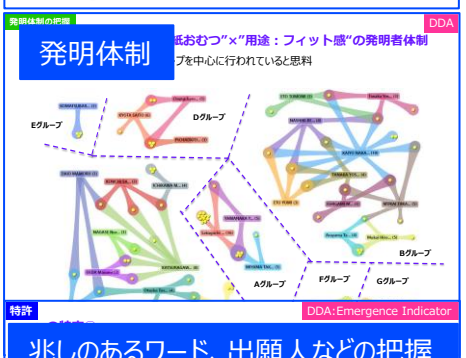


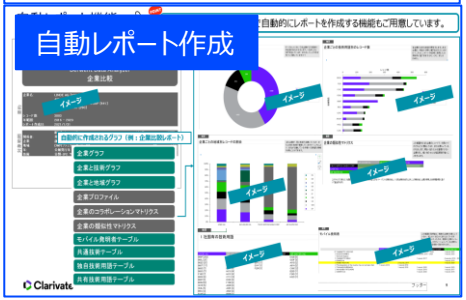
Derwent Data Analyzer (DDA)で実現できることの一例

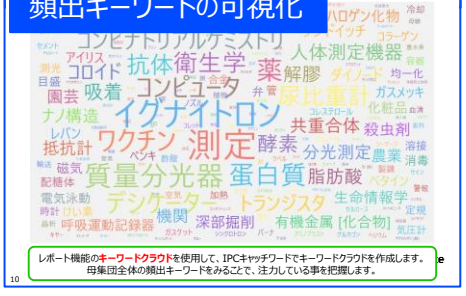












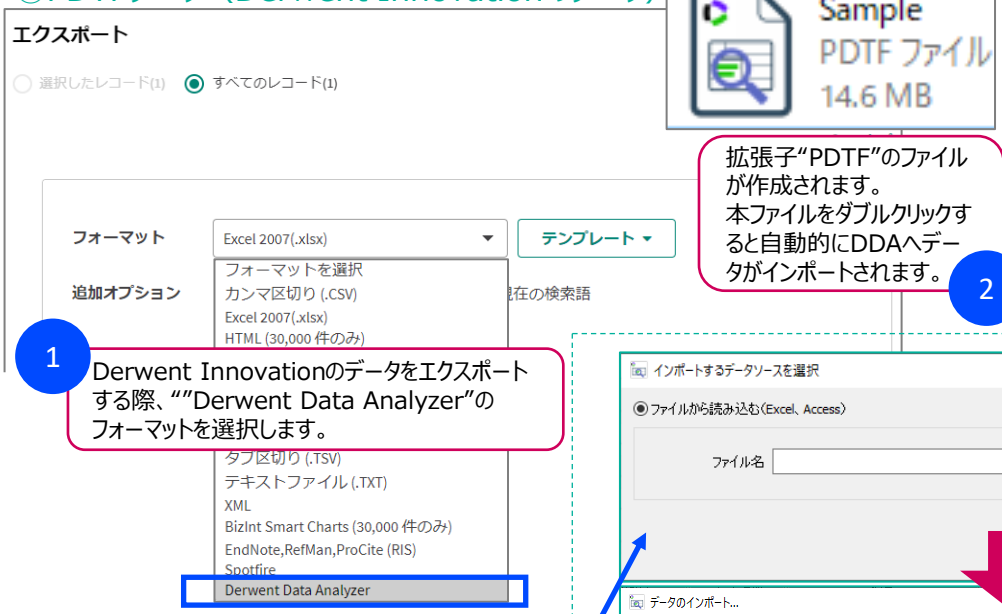
Derwent Data Analyzer

クイック・レファレンス・ガイド2

データのインポート

Derwent Data Analyzerでは、様々なファイル形式のデータをインポートすることができます。

①PDTFデータ（Derwent Innovationのデータ）

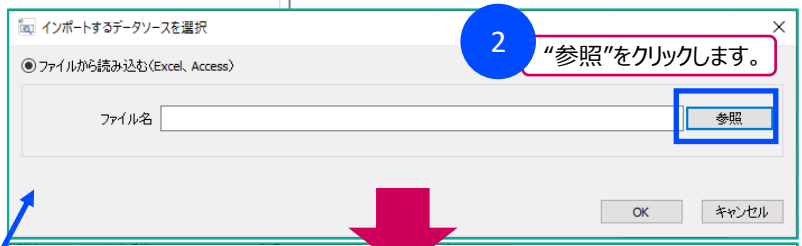


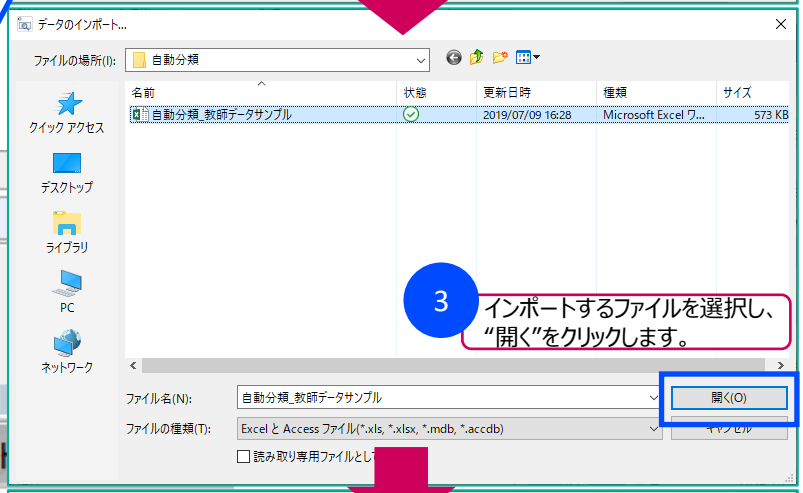
拡張子“PDTF”のファイルが作成されます。
本ファイルをダブルクリックすると自動的にDDAへデータがインポートされます。

※DIからレコード単位でエクスポートした際に下記フィールドをエクスポートしているとレコード単位、ファミリー単位の２つのDDAファイルが自動で作成されます。
・DWPIアクセッション番号
・発明者-DWPI
・譲受人/出願人
・譲受人-DWPI
・出願人コード-DWPI

1 Derwent Innovationのデータをエクスポートする際、“”Derwent Data Analyzer”のフォーマットを選択します。

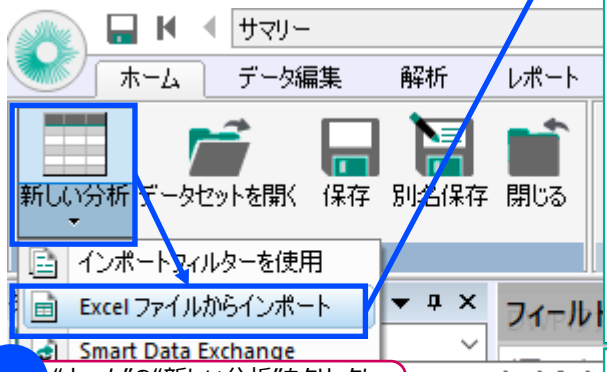
2 “参照”をクリックします。



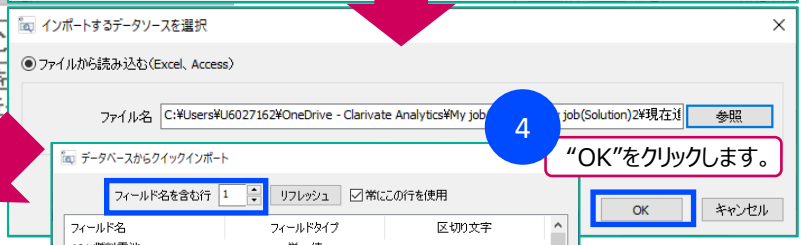


3 インポートするファイルを選択し、“開く”をクリックします。

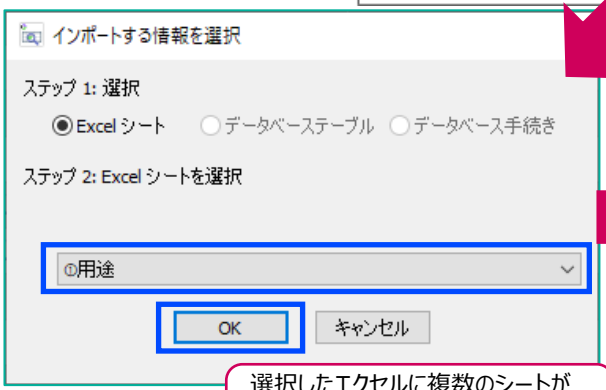
②Excelのデータ



1 “ホーム”の“新しい分析”をクリックし、“Excelファイルからのインポート”を選択します。

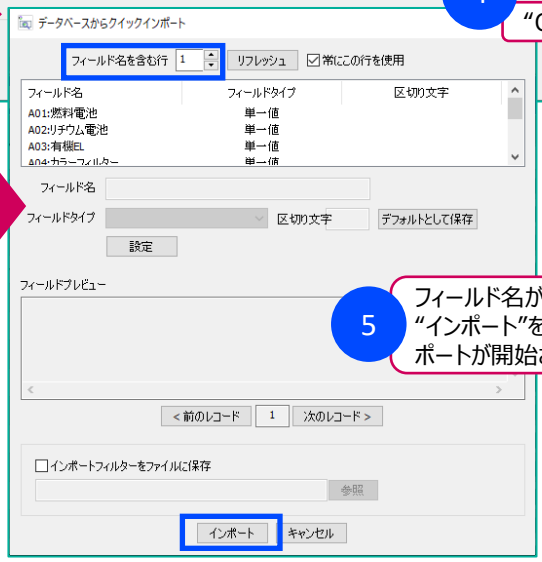


4 “OK”をクリックします。



選択したエクセルに複数のシートがある場合は、インポートするシートを選択し、“OK”をクリックします。

6



5 フィールド名がある行を選択し、“インポート”をクリックするとインポートが開始されます。

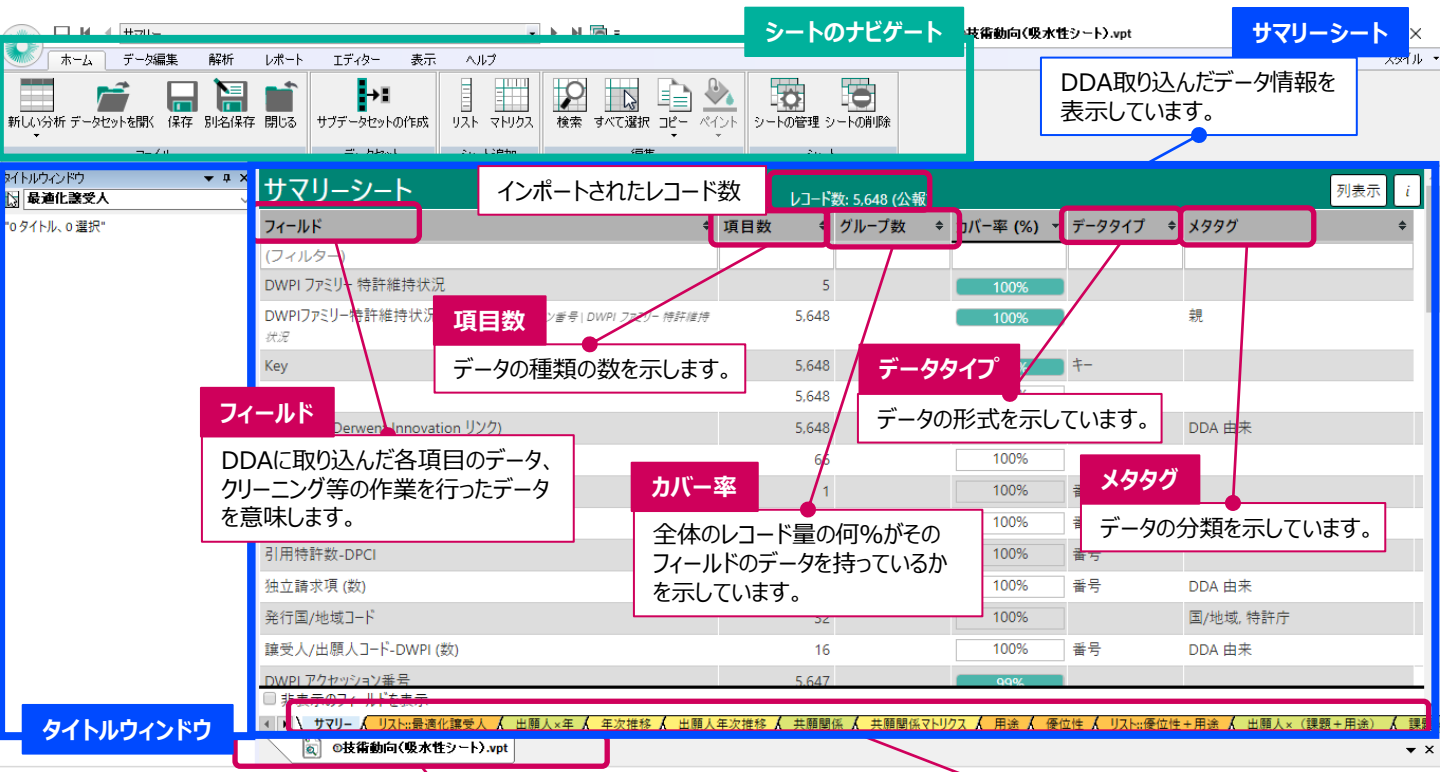
Derwent™

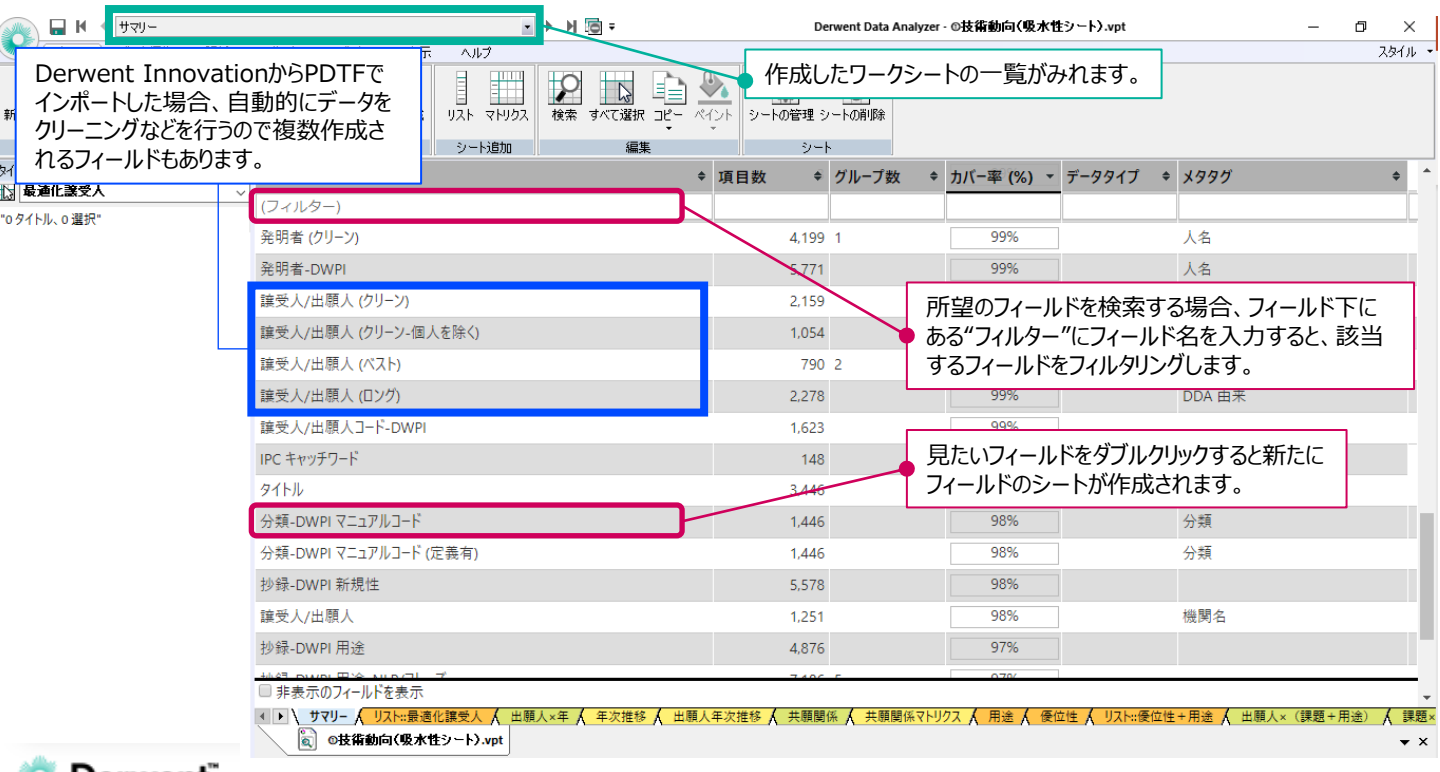
Derwent Data Analyzer

クイック・レファレンス・ガイド3

サマリ画面

データのインポートが完了するとサマリ画面が開きます。





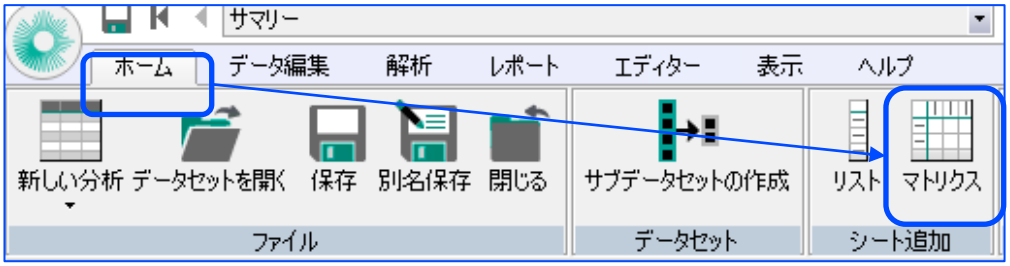
Derwent™

Derwent Data Analyzer

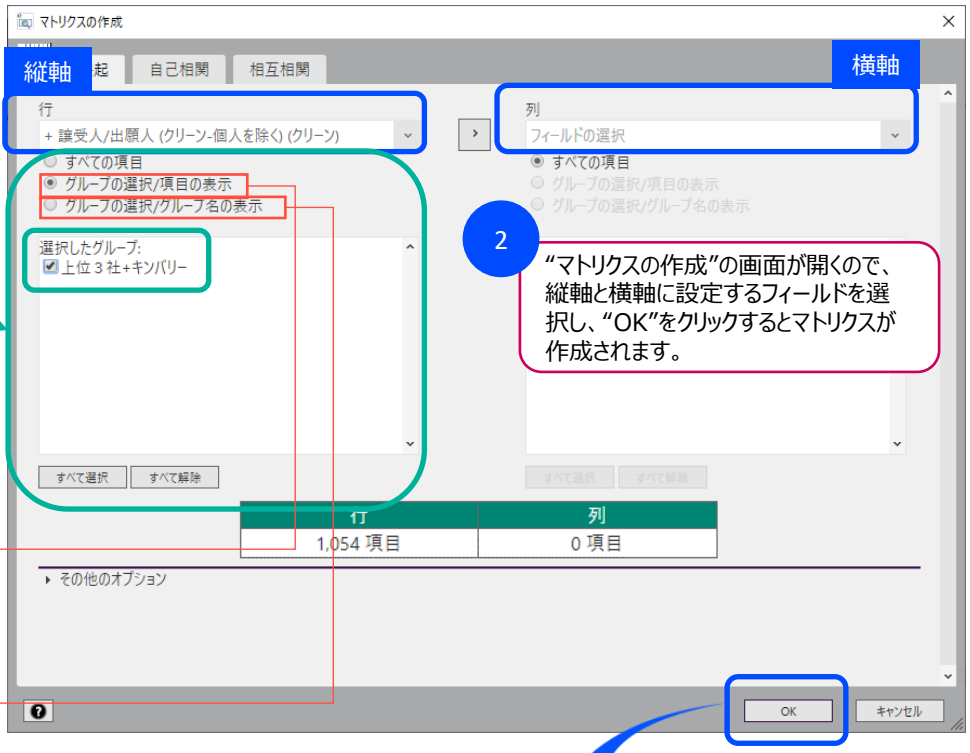
クイック・レファレンス・ガイド4

マトリクスの作成

縦軸、横軸に所望のフィールドを設定し、マトリクスを作成します。



“ホーム”シートから“マトリクス”をクリックします。 1



※選択したフィールドがグループ設定されている場合、“グループの選択／項目の表示”または“グループの選択／グループ名の表示”が選択できます。選択したら“選択したグループ”で表示するグループにチェック✓します。

2 “マトリクスの作成”の画面が開くので、縦軸と横軸に設定するフィールドを選択し、“OK”をクリックするとマトリクスが作成されます。

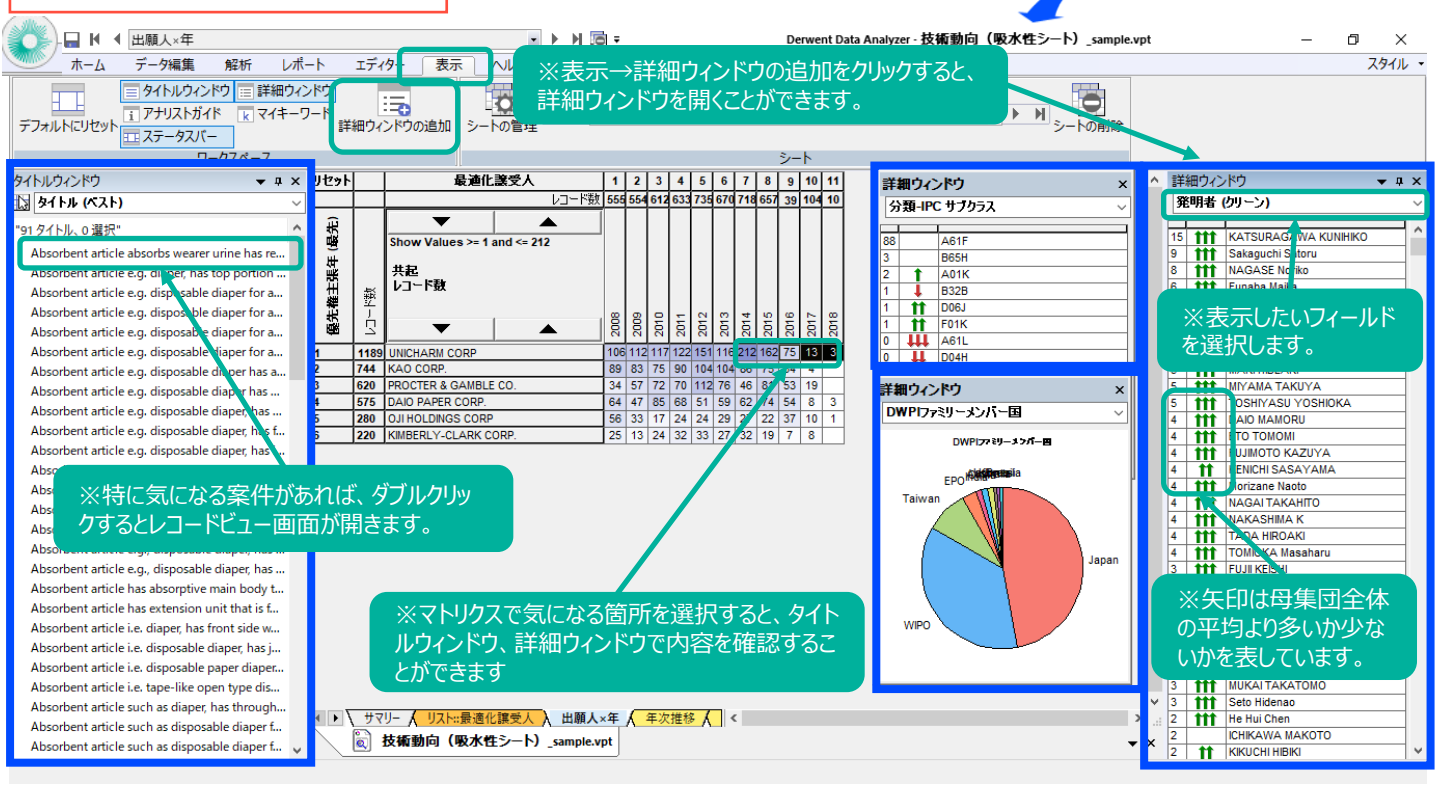
ユニ・チャーム、花王、P&G、キンバリーを“上位３社＋キンバリー”というグループ名でグルーピングした場合

グループの選択／項目の表示

グルーピング化した項目が表記されます。
例：ユニ・チャーム、花王、P&G、キンバリー

グループの選択／グループ名の表示

グループ名のみが表示されます。
例：上位３社＋キンバリー

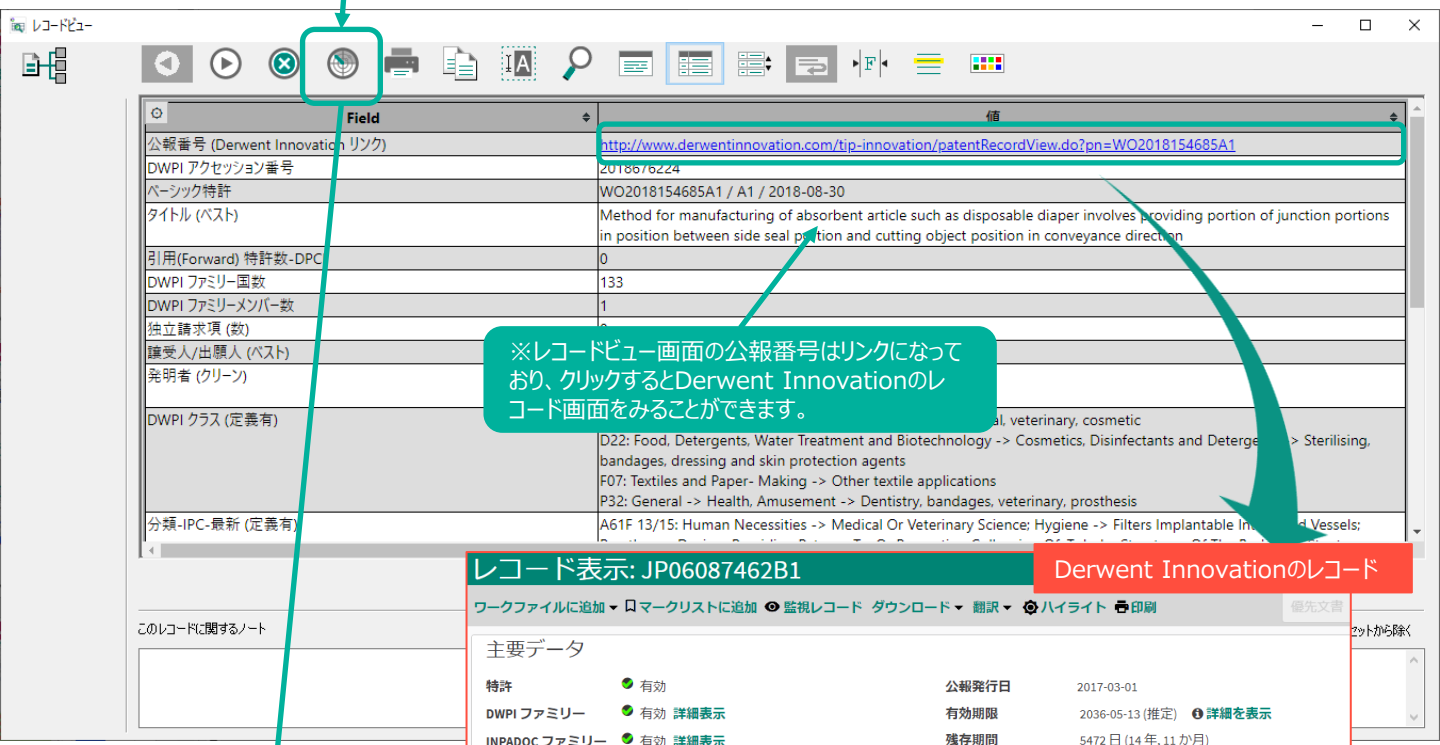


Derwent Data Analyzer

レコードビュー

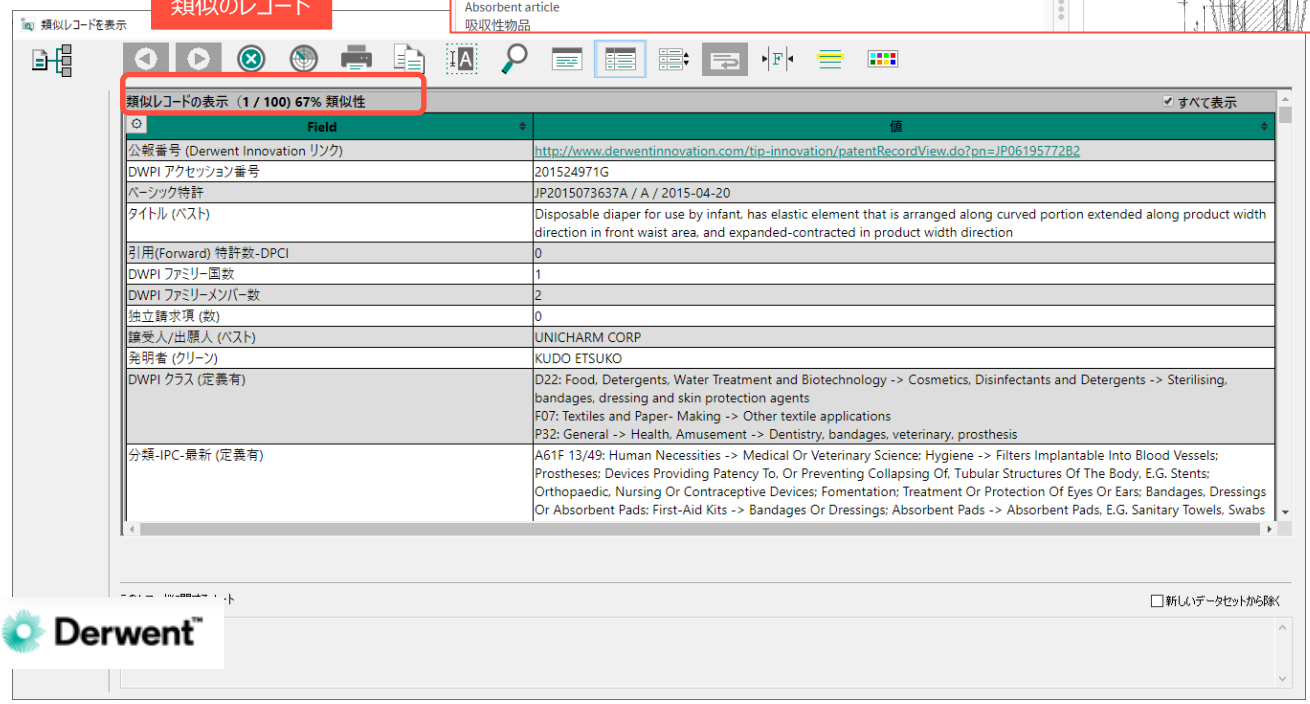
タイトルウィンドウから気になる案件をクリックするとレコードビューで詳細をみることができます。また、クラリベイトの特許検索ツールのDerwent Innovationのレコードを確認することができます。

※“類似レコードを検索”をクリックすると、DDAが母集団内で類似しているレコードを検索し、類似度を表示します。



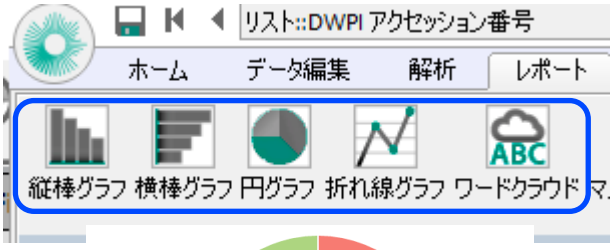
※レコードビュー画面の公報番号はリンクになっており、クリックするとDerwent Innovationのレコード画面をみることができます。

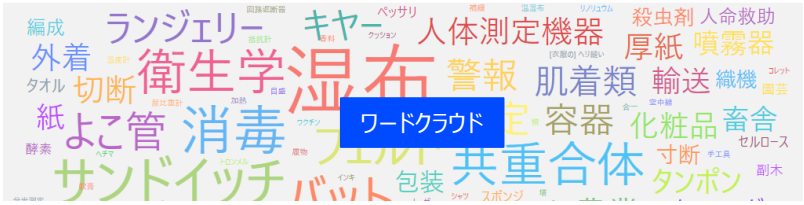
類似のレコード

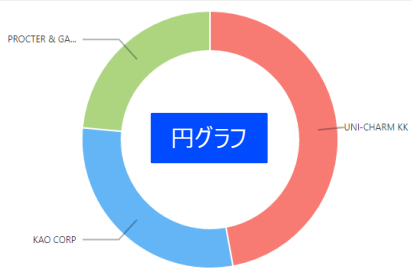


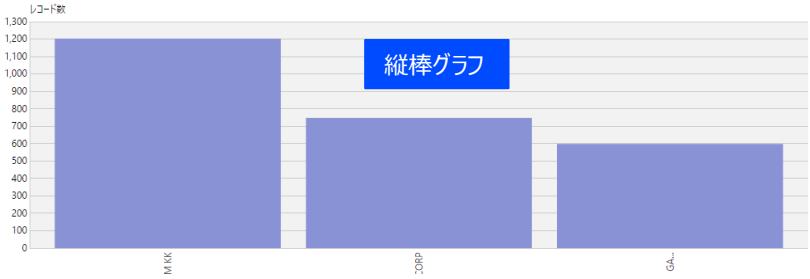
グラフ・マップ(1軸)の種類

1軸のグラフ・マップでは、縦棒グラフ、横棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、ワードクラウドをご用意しています。



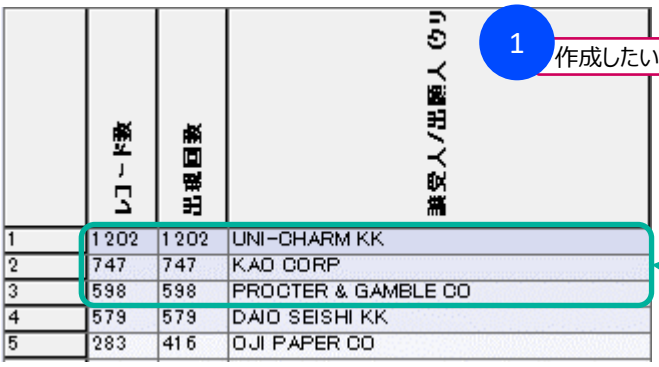






グラフ・マップ(1軸)の作成

例：出願人別の保有件数を比較する（縦軸グラフ）



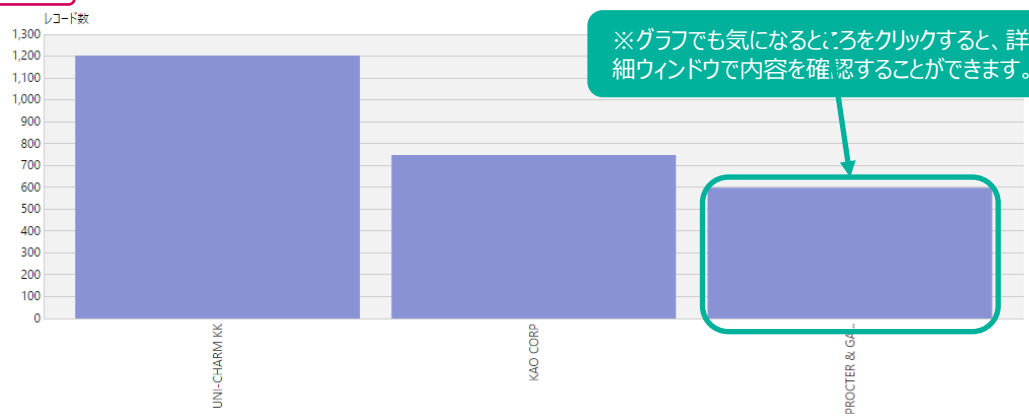
	レコード数	出願回数	譲受人/出願人 (クリ
1	1202	1202	UNI-CHARM KK
2	747	747	KAO CORP
3	598	598	PROCTER & GAMBLE CO
4	579	579	DAIO SEISHI KK
5	283	416	OJI PAPER CO

1 作成したいフィールドをクリックし、シートを開きます。

※グラフに表示する項目が決まっている場合は、項目を選択します。
選択しないで作成するとすべての項目に対するグラフが作成されます。

2 “レポート”シートから“縦軸グラフ”をクリックします。

3 グラフが作成されます。

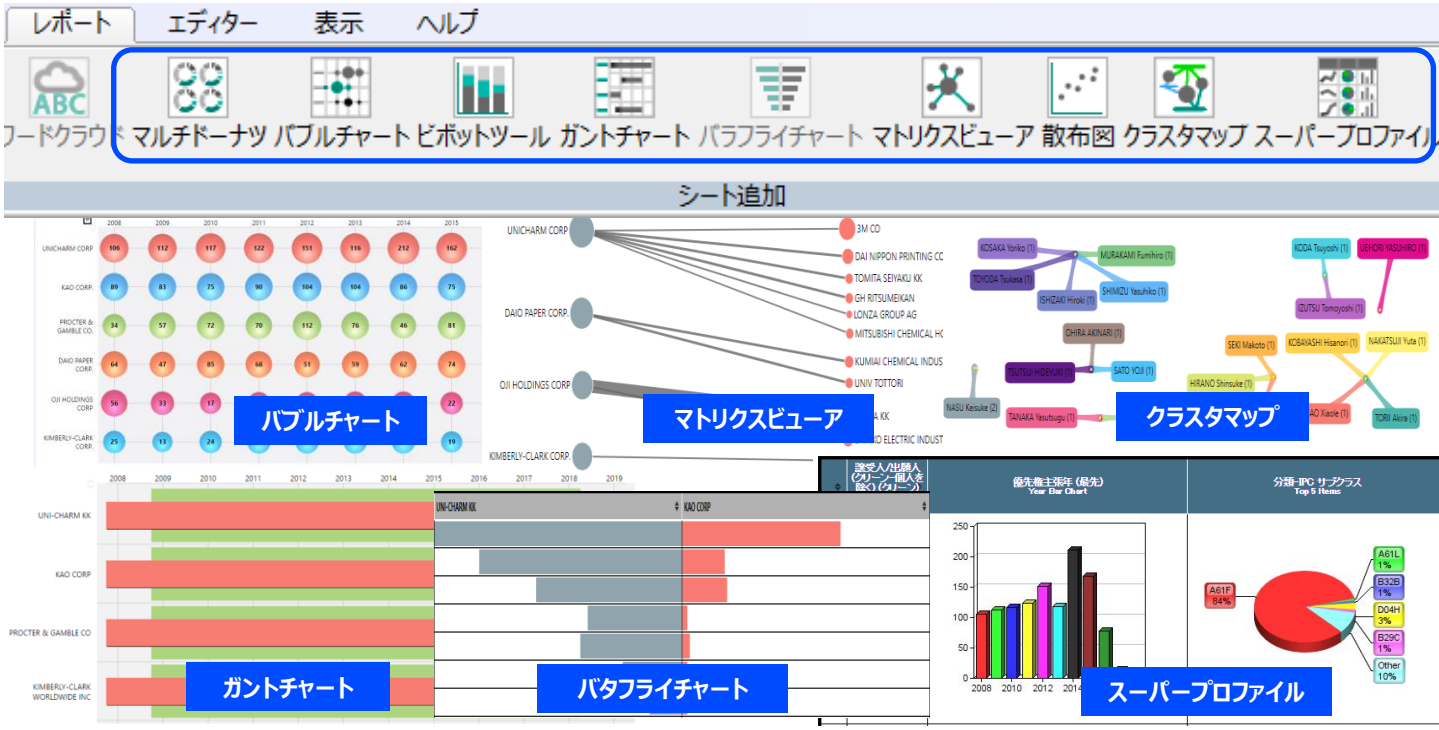


※グラフでも気になるところをクリックすると、詳細ウィンドウで内容を確認することができます。

Derwent Data Analyzer

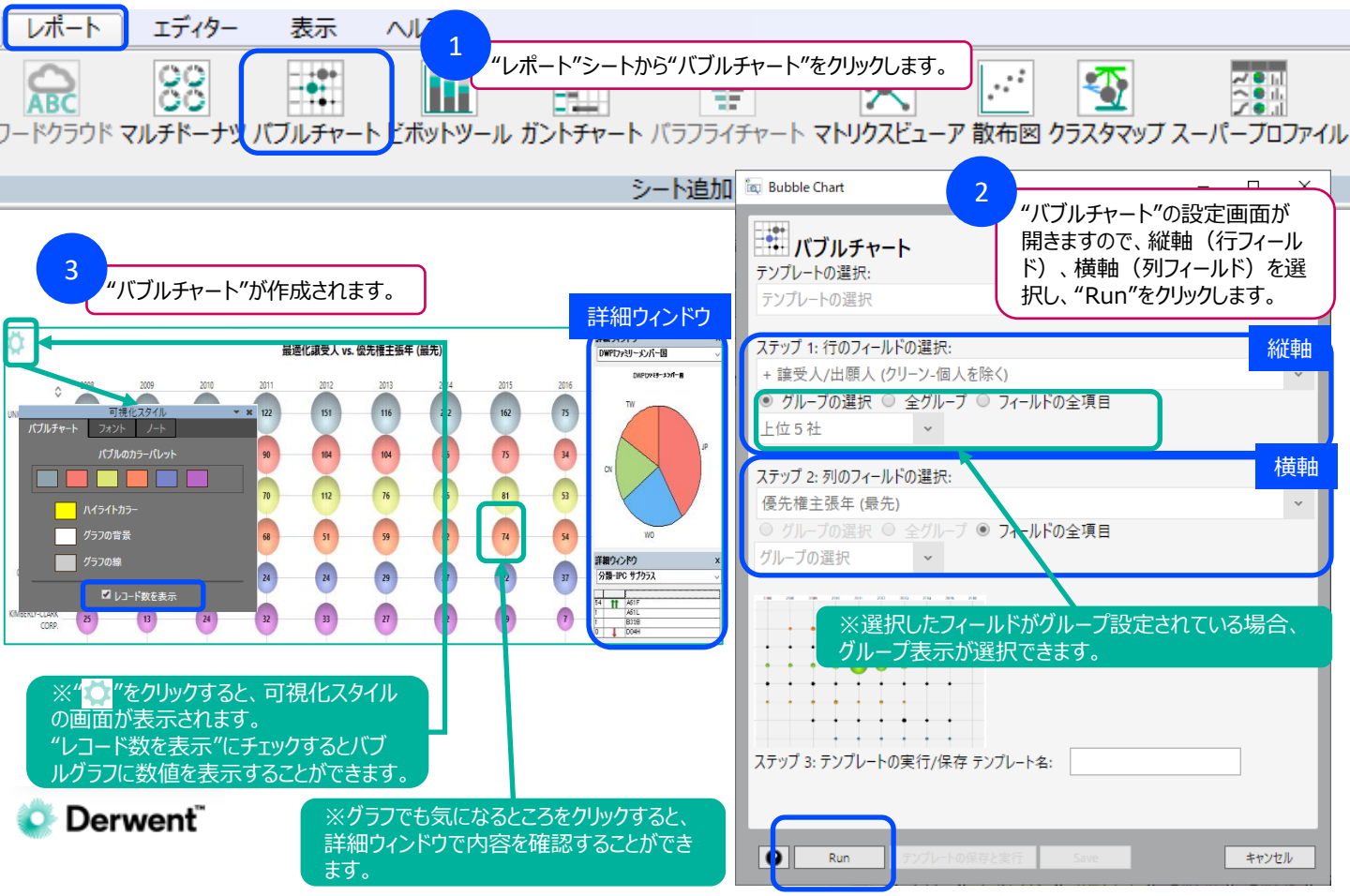
グラフ・マップ(2軸)の種類

2軸のグラフ・マップでは、バブルチャート、ガントチャート、マトリクスビューア、クラスタマップ、スーパープロファイルなどをご用意しています。



グラフ・マップ（2軸）の作成①

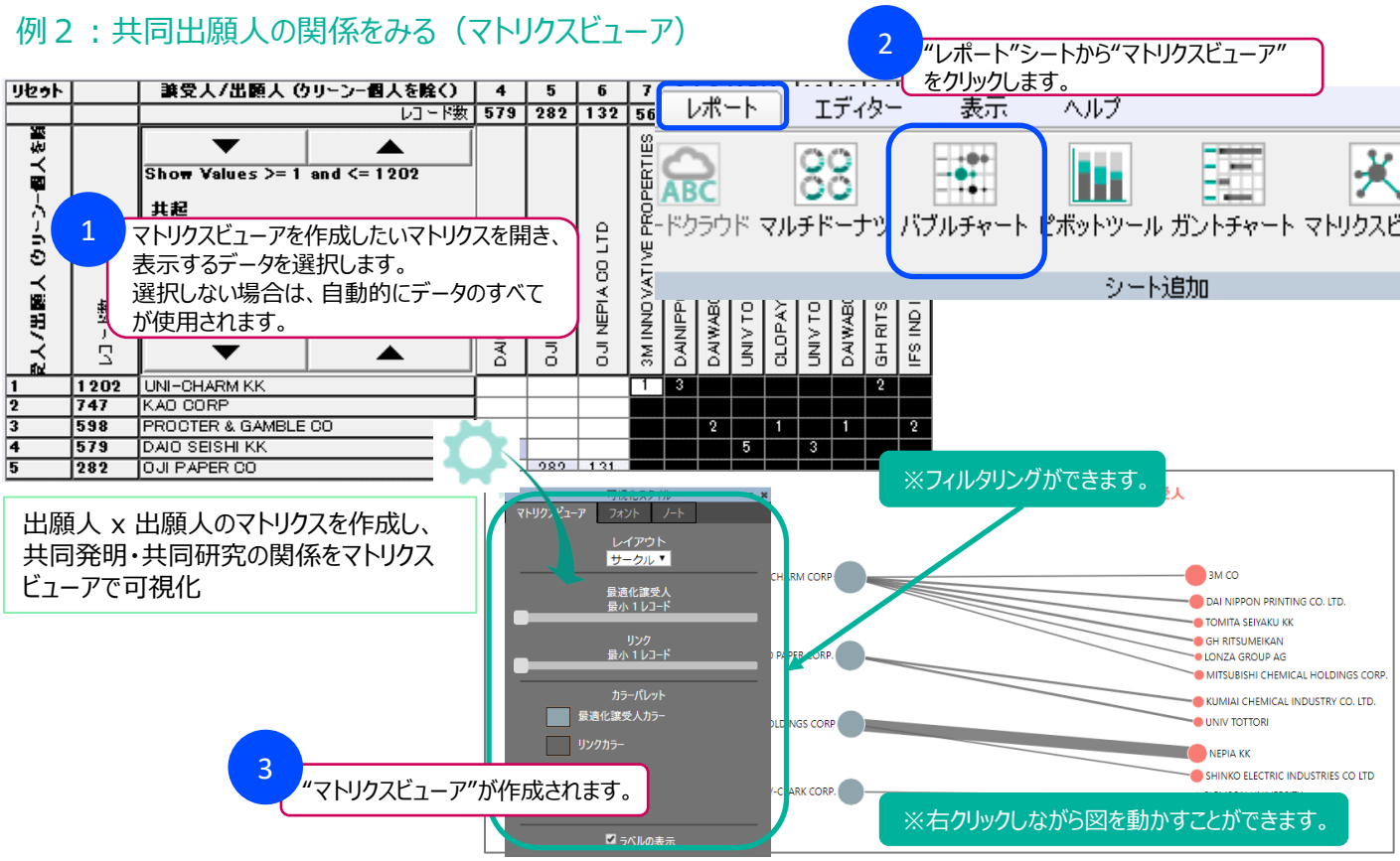
例１：出願人別の年次推移をみる（バブルチャート）



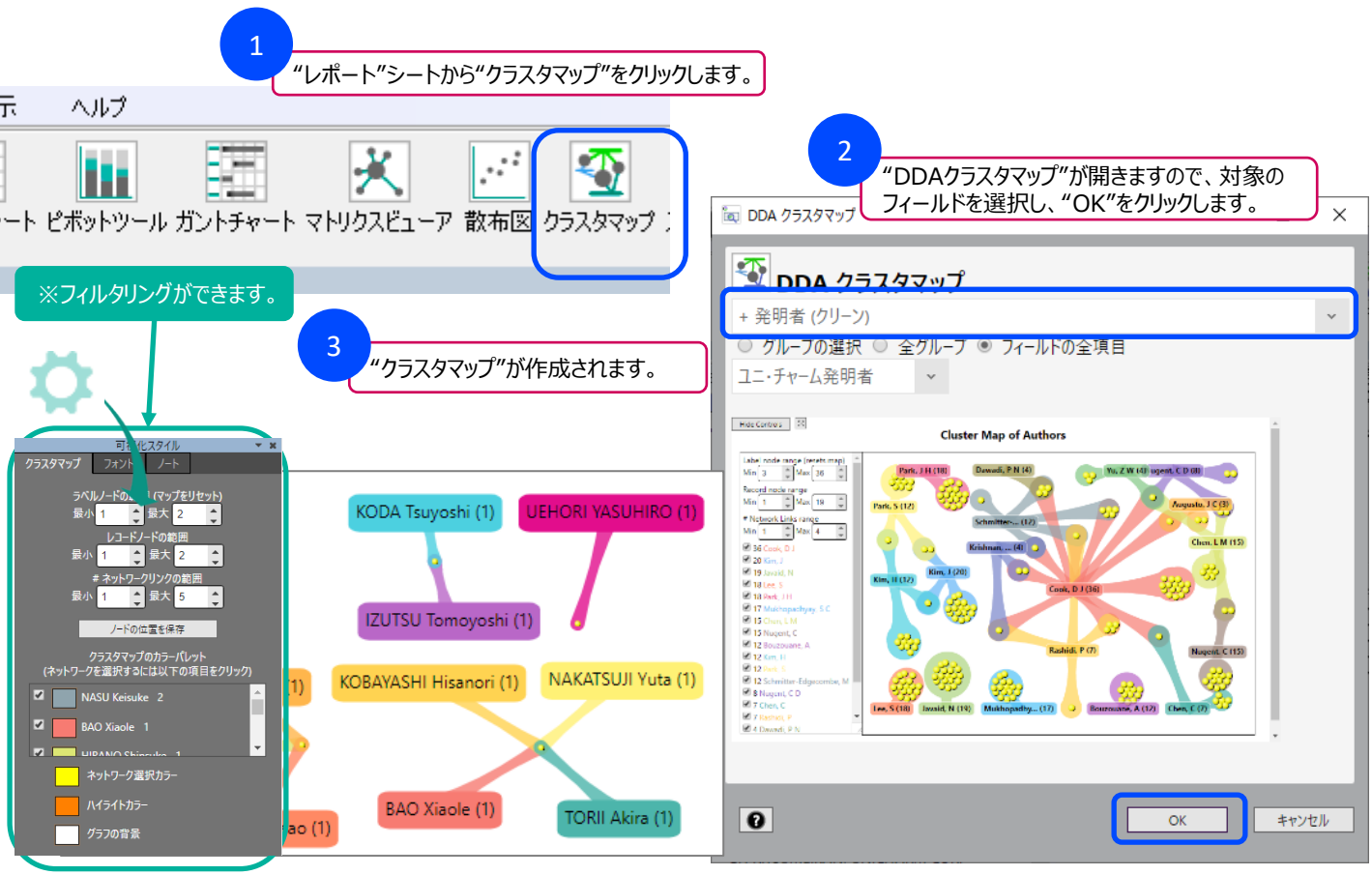
Derwent™

グラフ・マップ(2軸) の作成②

例２：共同出願人の関係をみる（マトリクスビューア）



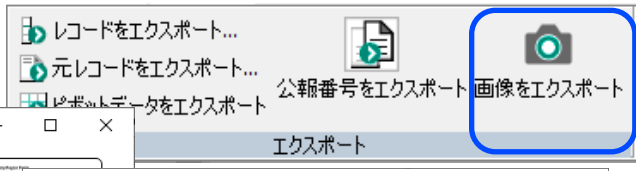
例３：競合の発明体制をみる（クラスタマップ）



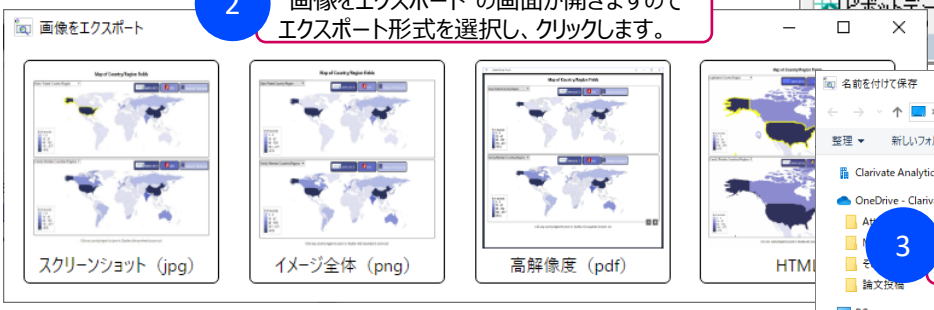
データのエクスポート

①作成したグラフ、マップの画像エクスポート

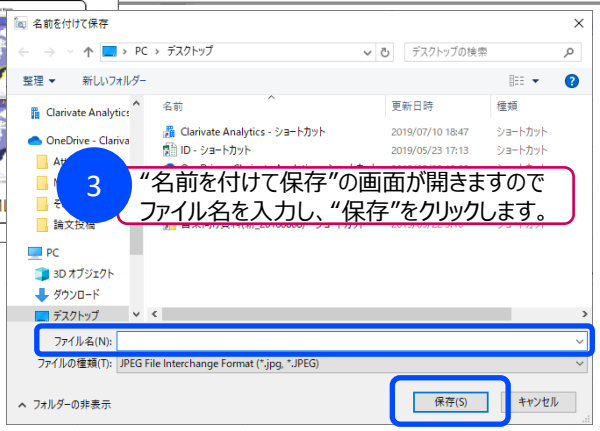
1 “レポート”シートの“エクスポート”で“画像をエクスポート”をクリックします。



2 “画像をエクスポート”の画面が開きますのでエクスポート形式を選択し、クリックします。

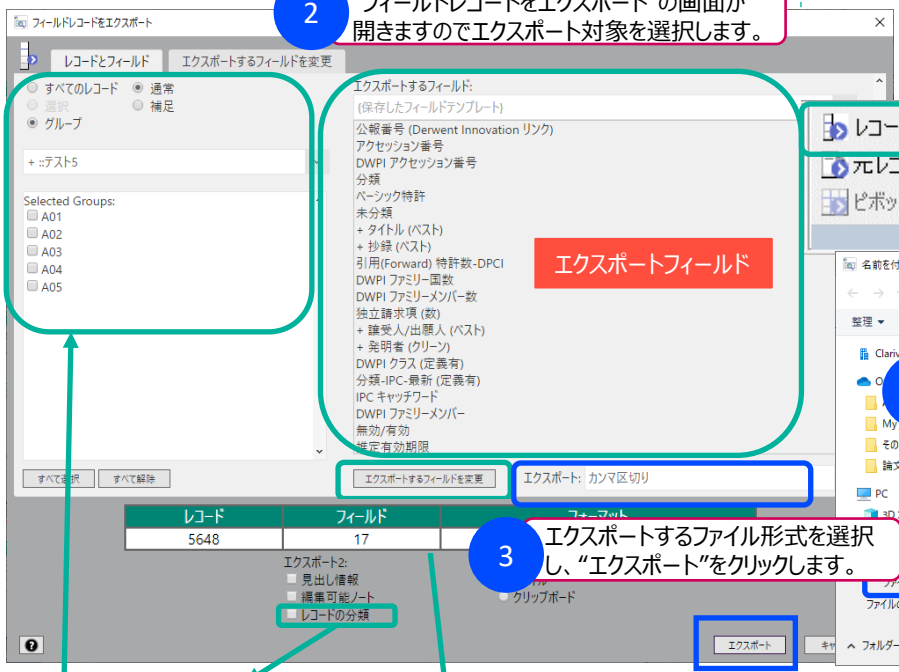


3 “名前を付けて保存”の画面が開きますのでファイル名を入力し、“保存”をクリックします。

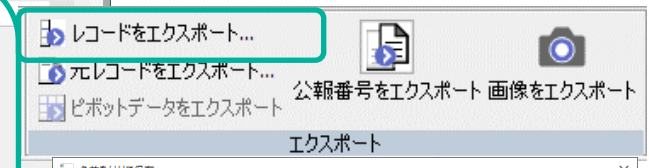


②レコードのエクスポート

2 “フィールドレコードをエクスポート”の画面が開きますのでエクスポート対象を選択します。



1 “レポート”シートの“エクスポート”で“画像をエクスポート”をクリックします。

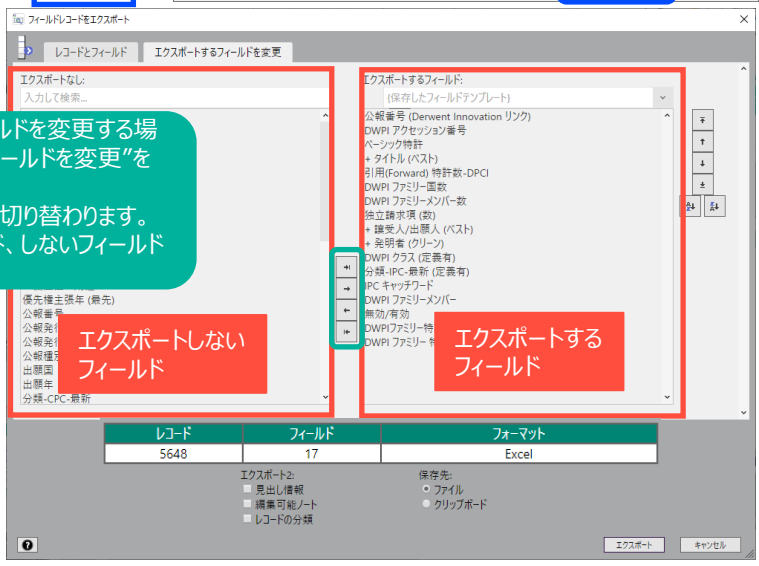


3 エクスポートするファイル形式を選択し、“エクスポート”をクリックします。

4 “名前を付けて保存”の画面が開きますのでファイル名を入力し、“保存”をクリックします。

※レコード分類をしている場合、“レコードの分類”にチェックすると分類をエクスポートします。

※エクスポートするフィールドを変更する場合、“エクスポートするフィールドを変更”をクリックします。
フィールド変更のシートに切り替わります。
エクスポートするフィールド、しないフィールドを選択します。

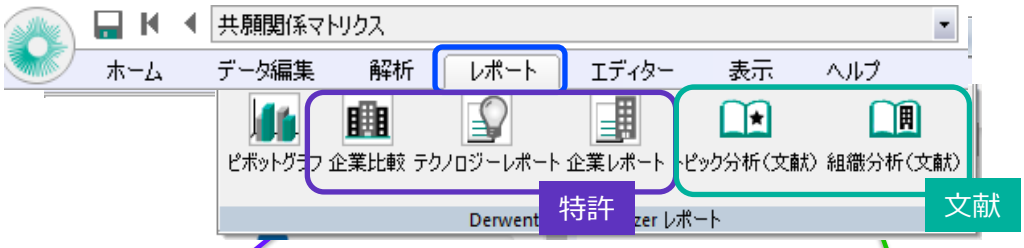


※エクスポートするレコードを選択します。
a)すべてのレコード：全レコード
b)選択：選択したレコード
c)グループ：フィールドを選択し、グループが設定されていれば対象項目を選択
“通常”：a,b,cで選択したレコード
“補足”：a,b,cで選択されていないレコード

Derwent Data Analyzer

自動出力レポート

特許、学術文献に関するデータをもとに自動でレポートを作成する機能です。



企業レポート

出願人の中から1社選択し、その企業の出願先の国、分野、発明者の年代別傾向、新傾向などをレポートします。

企業比較

出願人の中から2-5社を選択し、出願動向を比較します。
選択した企業の出願先の国、分野、発明者の年代傾向、共同出願傾向、ユニークな分野などをレポートします。

テクノロジーレポート

技術分野の動向
ファイル中の動向について、出願先の国、分野、発明者の年代傾向などをレポートします。

文献トピック

論文の傾向を分析
年、組織、国、トピックワードごとの傾向、新出などを分析してレポートします。

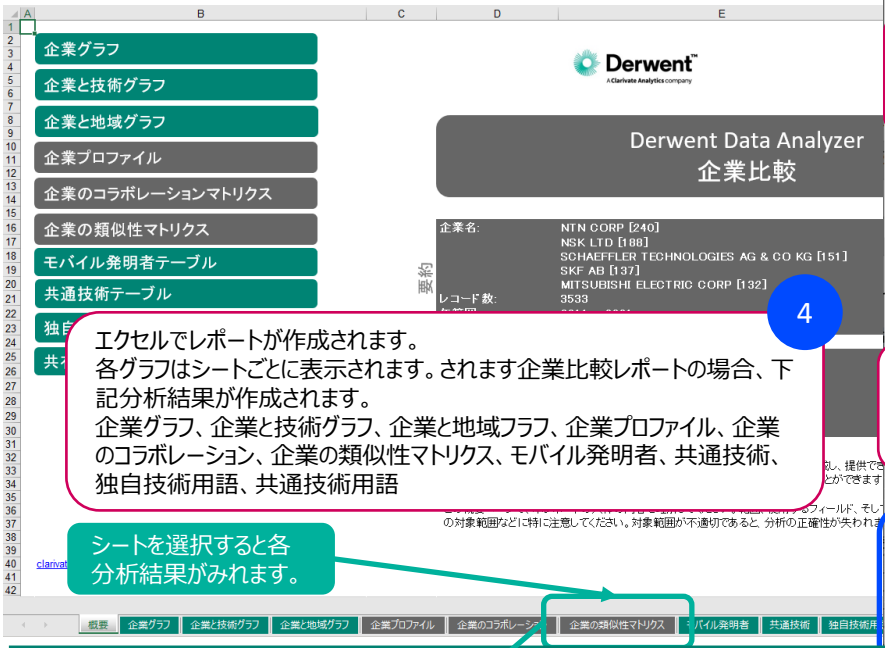
文献組織

所属機関の中から組織を1つ選択し、年、組織、国、トピックワードの傾向を分析してレポートします。

特許では３つのレポート、学術文献では２つのレポートが自動で作成できます。

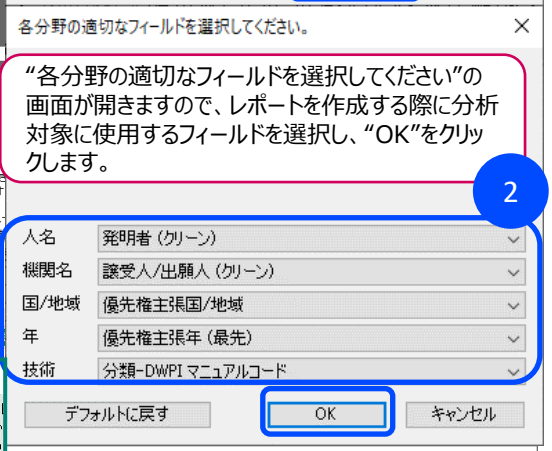
企業比較レポートを作成する場合、“レポート”の“企業比較”をクリックします。
“Derwent Data Analyzer”の画面が開きますので“OK”をクリックします。

1



4

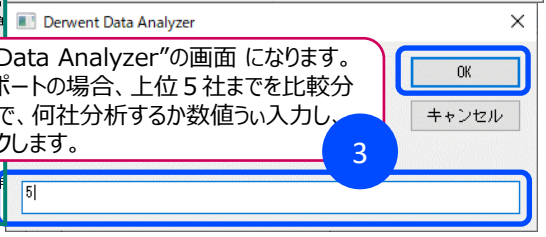
エクセルでレポートが作成されます。
各グラフはシートごとに表示されます。されます企業比較レポートの場合、下記分析結果が作成されます。
企業グラフ、企業と技術グラフ、企業と地域フラフ、企業プロファイル、企業のコラボレーション、企業の類似性マトリクス、モバイル発明者、共通技術、独自技術用語、共通技術用語



“各分野の適切なフィールドを選択してください”の画面が開きますので、レポートを作成する際に分析対象に使用するフィールドを選択し、“OK”をクリックします。

2

シートを選択すると各分析結果がみれます。



“Derwent Data Analyzer”の画面 になります。
企業比較レポートの場合、上位５社までを比較分析できますので、何社分析するか数値うぃ入力し、“OK”をクリックします。

3

データセットの融合とレコードの融合の違い

元データ

公報番号	出願人	出願国
JP2000-XXXXXX	ABC	JP, EP
JP2001-YYYYYY	DEF	JP

追加データ

フィールドデータの追加

公報番号	発明者	IPC
JP2000-XXXXXX	X, Y, Z	H01K
JP2001-YYYYYY	Q,R	H01K

レコードの融合

公報番号	出願人	出願国	発明者	IPC
JP2000-XXXXXX	ABC	JP, EP	X, Y, Z	A01A
JP2001-YYYYYY	DEF	JP	Q,R	H01K

追加データ

項目データの追加

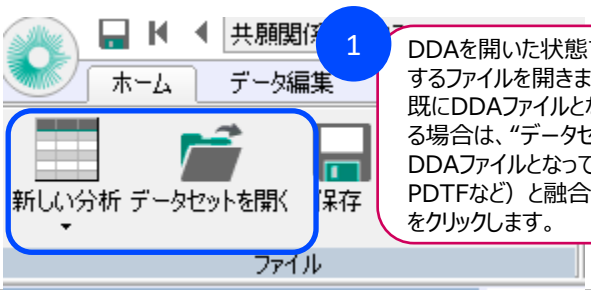
公報番号	出願人	出願国
JP2002-ZZZZZZ	GHI	JP, US
JP2003-RRRRRR	JKL	JP

データセットの融合

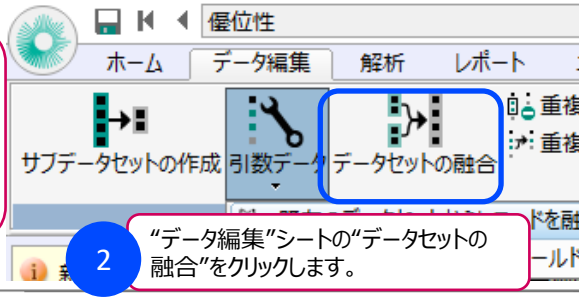
公報番号	出願人	出願国
JP2000-XXXXXX	ABC	JP, EP
JP2001-YYYYYY	DEF	JP
JP2002-ZZZZZZ	GHI	JP, US
JP2003-RRRRRR	JKL	JP

データセットの融合

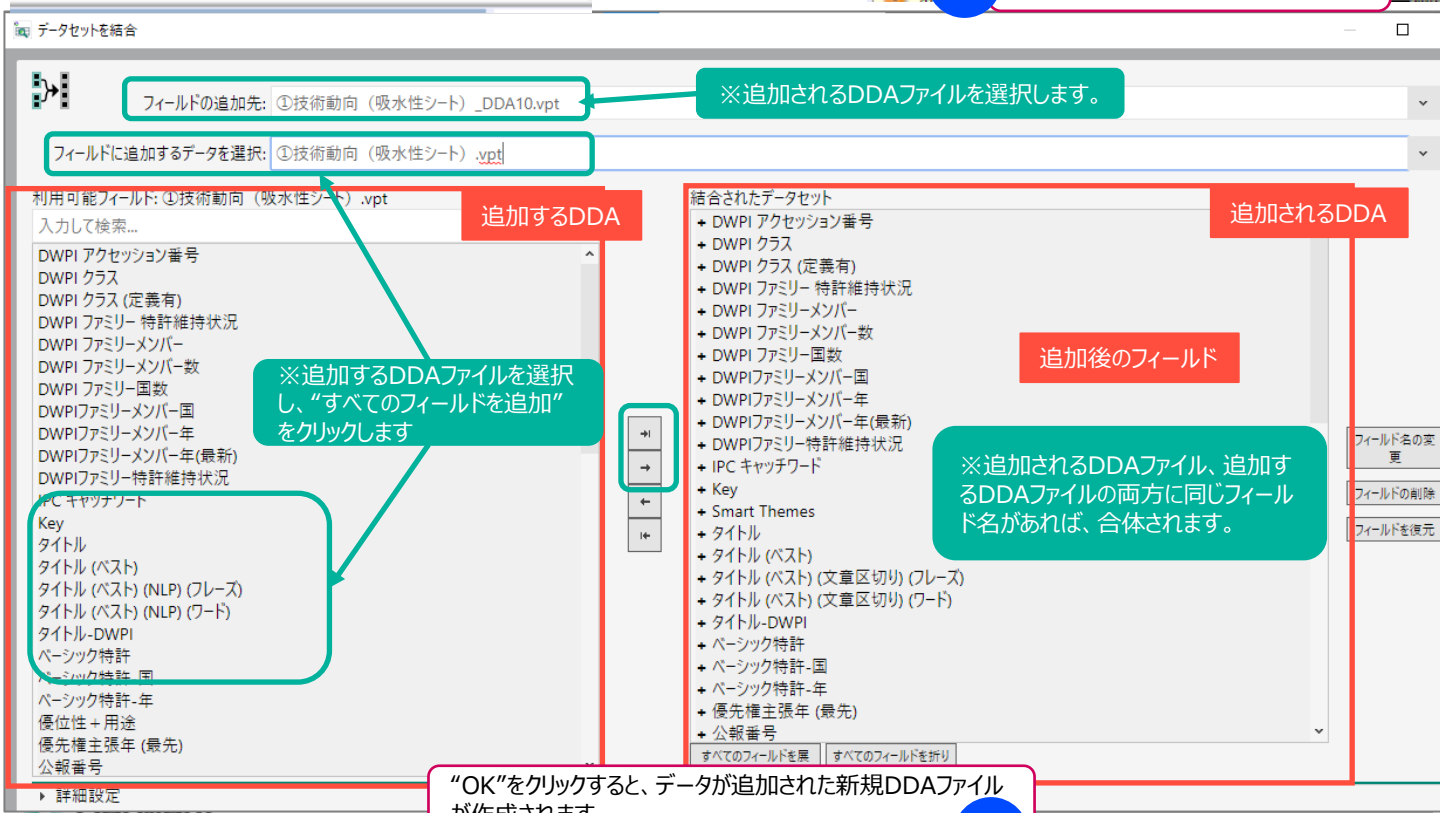
項目データを追加する場合は、データセットの癒合を行います。



1 DDAを開いた状態で、“ホーム”シートで追加するファイルを開きます。
既にDDAファイルとなっているデータを追加する場合は、“データセットを開く”をクリックします。
DDAファイルとなっていないデータ（エクセル、PDTFなど）と融合する場合は“新しい分析”をクリックします。



2 “データ編集”シートの“データセットの融合”をクリックします。



※追加されるDDAファイルを選択します。

追加するDDA

※追加するDDAファイルを選択し、“すべてのフィールドを追加”をクリックします

追加されるDDA

追加後のフィールド

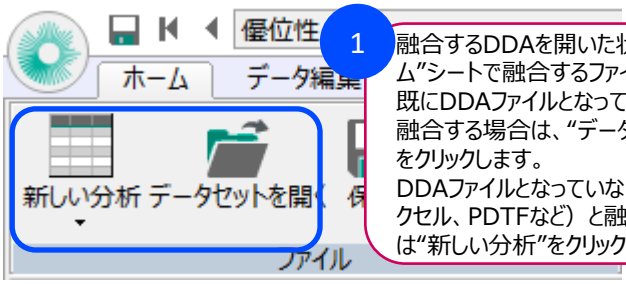
※追加されるDDAファイル、追加するDDAファイルの両方に同じフィールド名があれば、合体されます。

“OK”をクリックすると、データが追加された新規DDAファイルが作成されます。

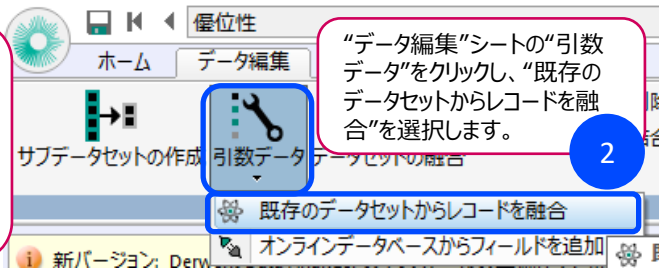
4

レコードの融合

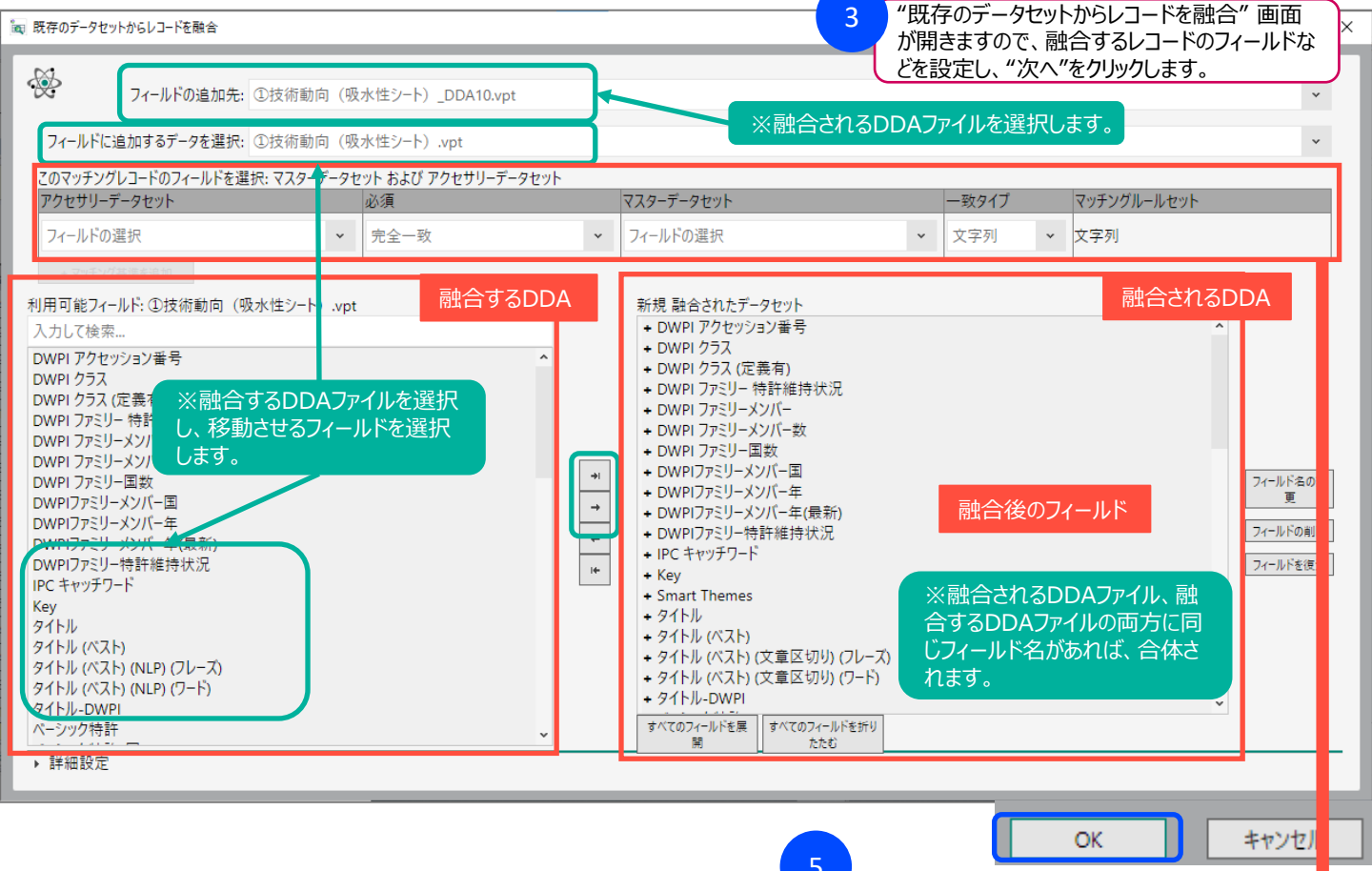
2つの異なるデータセットを双方で一致するフィールドを使い、フィールドデータを追加する場合、レコードの融合を行います。



1 融合するDDAを開いた状態で、“ホーム”シートで融合するファイルを開きます。
既にDDAファイルとなっているデータを融合する場合は、“データセットを開く”をクリックします。
DDAファイルとなっていないデータ（エクセル、PDTFなど）と融合する場合は“新しい分析”をクリックします。



“データ編集”シートの“引数データ”をクリックし、“既存のデータセットからレコードを融合”を選択します。 2



3 “既存のデータセットからレコードを融合” 画面が開きますので、融合するレコードのフィールドなどを設定し、“次へ”をクリックします。

※融合されるDDAファイルを選択します。

融合するDDA

※融合するDDAファイルを選択し、移動させるフィールドを選択します。

融合されるDDA

融合後のフィールド

※融合されるDDAファイル、融合するDDAファイルの両方に同じフィールド名があれば、合体されます。

5 “OK”をクリックすると、融合された新規DDAファイルが作成されます。

※データ融合させる際の双方のデータを一致させるキーフィールドを選択します。

融合するDDA

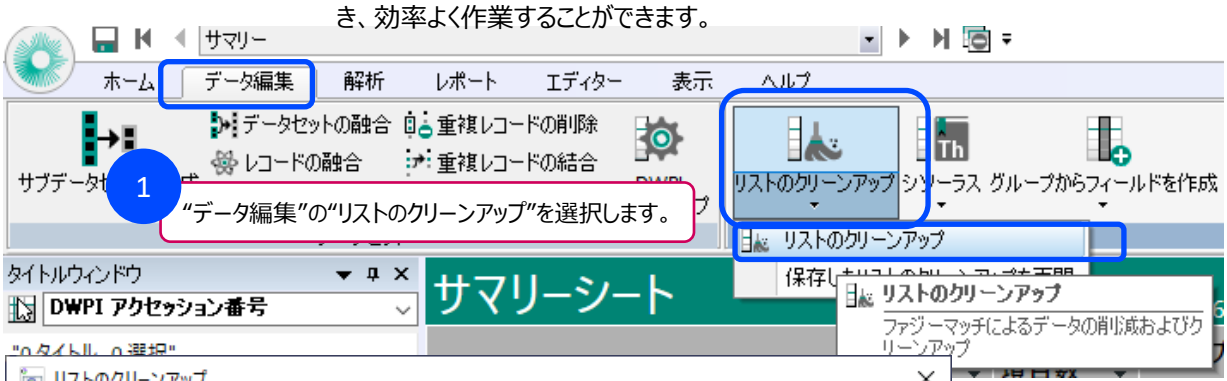
融合されるDDA

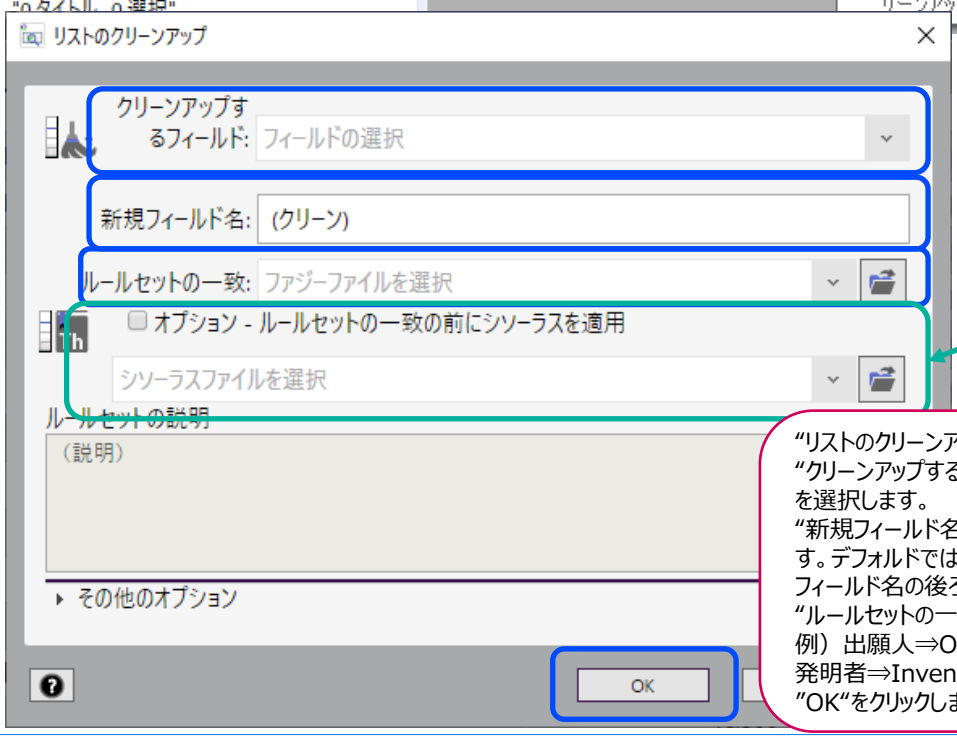
必須：完全一致
一致タイプ：文字列
を選択する

4 結合するためのキーとなるフィールドおよび、一致の精度を設定します。

データクリーニング

名寄せなどデータをクリーニング化する場合に行います。作成したルールはシソーラスとして保存ができ、次回以降のデータクリーニングでは保存したシソーラスを使うことで、クリーニングを 1 から行う手間を省き、効率よく作業することができます。

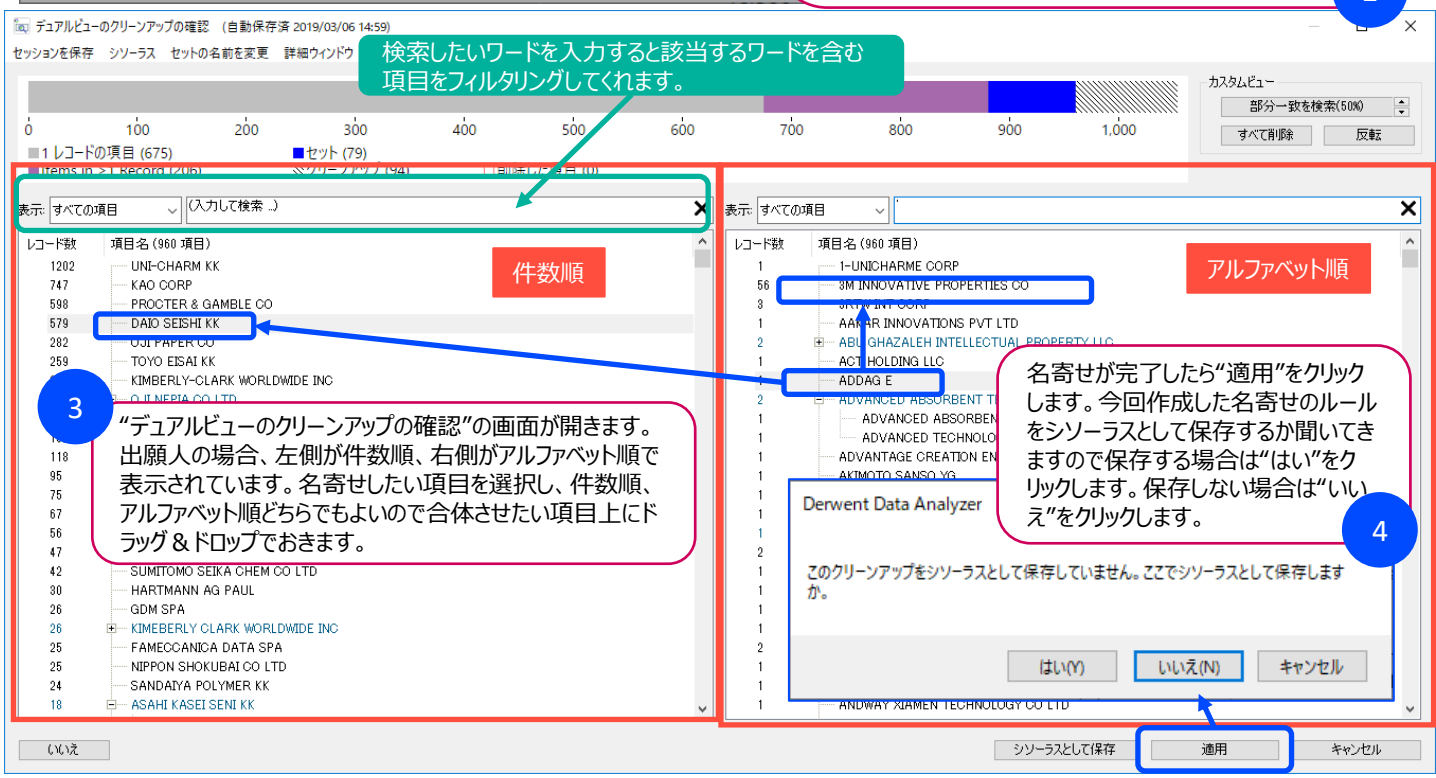




※データクリーンと一緒に使用するシソーラスファイルがある場合は、“オプション-ルールセットの一致前にシソーラスを適用”のチェックボックスにチェックを入れ、適用するシソーラスファイルを選択します。

“リストのクリーンアップ”の画面が開きます。
“クリーンアップするフィールド”でクリーニングする対象フィールドを選択します。
“新規フィールド名”にクリーニング後のフィールド名を入力します。デフォルドでは、クリーンアップするフィールドで選択したフィールド名の後ろに（クリーン）が付きます。
“ルールセットの一致”から該当するファイルを選択します。
例）出願人⇒Organization Names
発明者⇒Inventor
”OK“をクリックします。

2



3

“デュアルビューのクリーンアップの確認”の画面が開きます。出願人の場合、左側が件数順、右側がアルファベット順で表示されています。名寄せしたい項目を選択し、件数順、アルファベット順どちらでもよいので合体させたい項目上にドラッグ＆ドロップでおきます。

名寄せが完了したら“適用”をクリックします。今回作成した名寄せのルールをシソーラスとして保存するか聞いてきますので保存する場合は“はい”をクリックします。保存しない場合は“いいえ”をクリックします。

4

Derwent Data Analyzer

データを区切る　カンマやスペースなど区切り文字の項目を分割します。

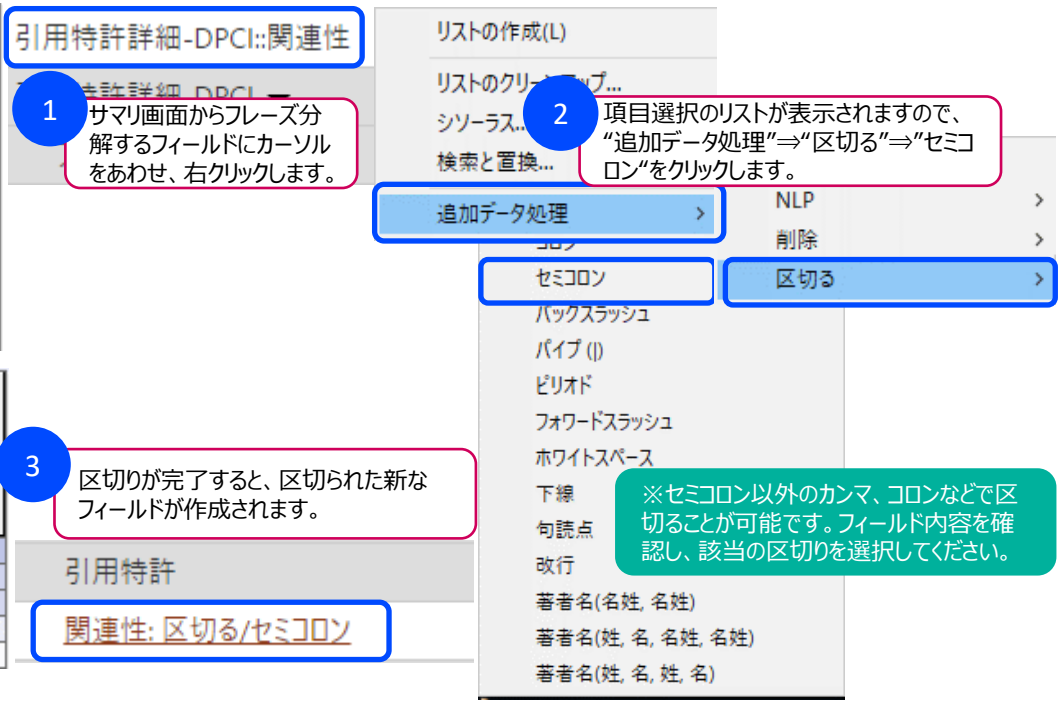
区切り前

	レコード数	出現回数	引用特許詳細
1	3957	15787	A
2	2438	6842	Y
3	1489	2892	X
4	1059	1461	X;Y
5	487	866	I;X
6	432	861	A;Y
7	5		A;X

区切り

区切り後

	レコード数	出現回数	引用特許詳細
1	4169	18082	A
2	3007	6865	X
3	2746	9967	Y
4	1010	1986	I
5	232	359	P



データのフレーズ分解　文章のデータをフレーズに分解します。

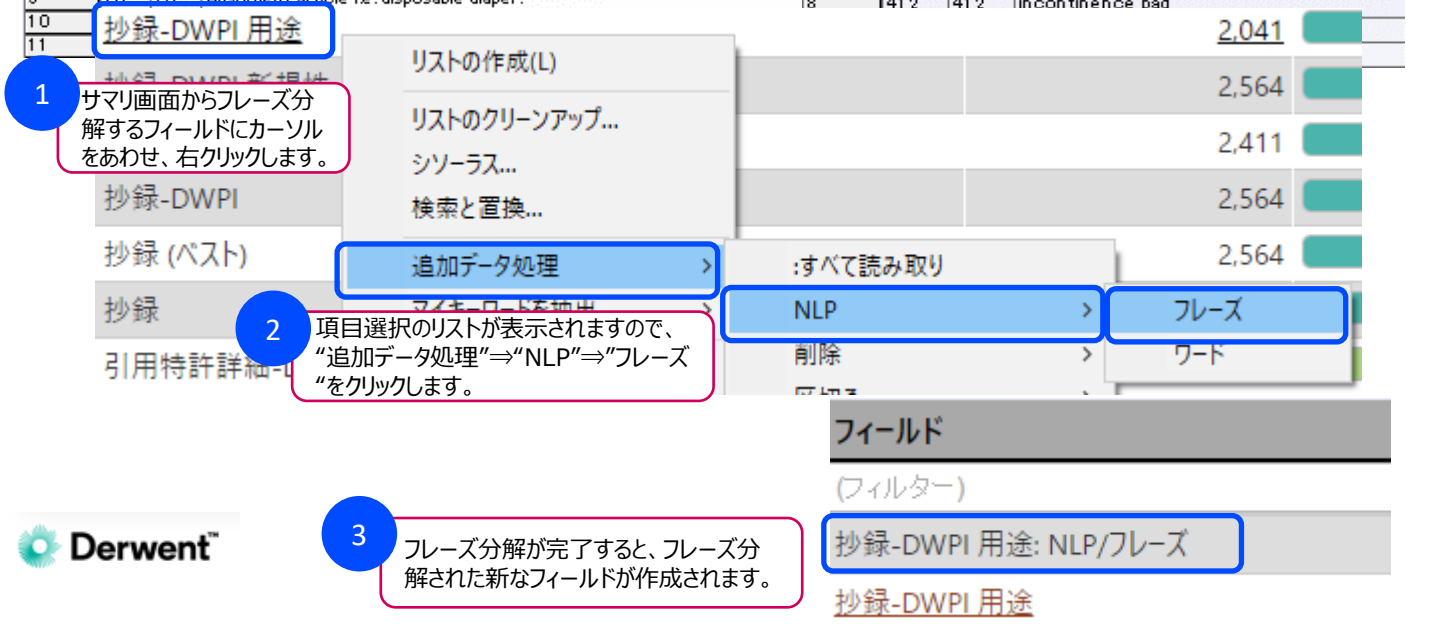
分解前のDWPI 用途

	レコード数	出現回数	抄録-DWPI 用途
1	125	125	Disposable diaper.
2	41	41	Brief type disposable diaper.
3	37	37	Underpants-type disposable diaper.
4	31	31	Absorbent article such as disposable diaper.
5	29	29	Tape-type disposable diaper.
6	24	24	Absorbent article e.g. disposable diaper.
7	20	20	Diaper.
8	19	19	Absorbent article.
9	10	10	Absorbent article i.e. disposable diaper.

フレーズ分解

分解後のDWPI 用途

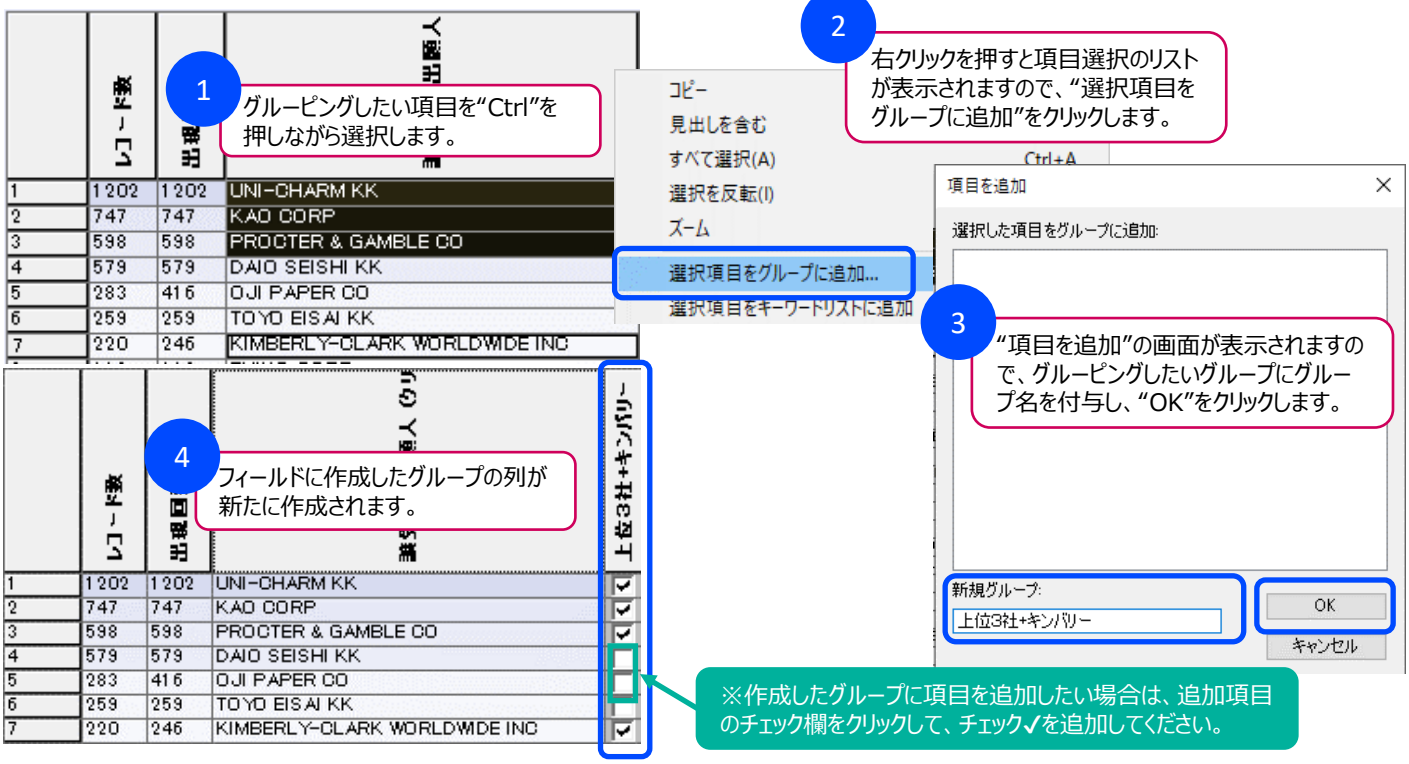
	レコード数	出現回数	抄録-DWPI
1	1681	1686	disposable diaper
2	1374	1383	absorbent article
3	1158	1159	sanitary napkin
4	729	739	diaper
5	470	476	use
6	439	439	method
7	424	429	urine
8	412	412	incontinence pad



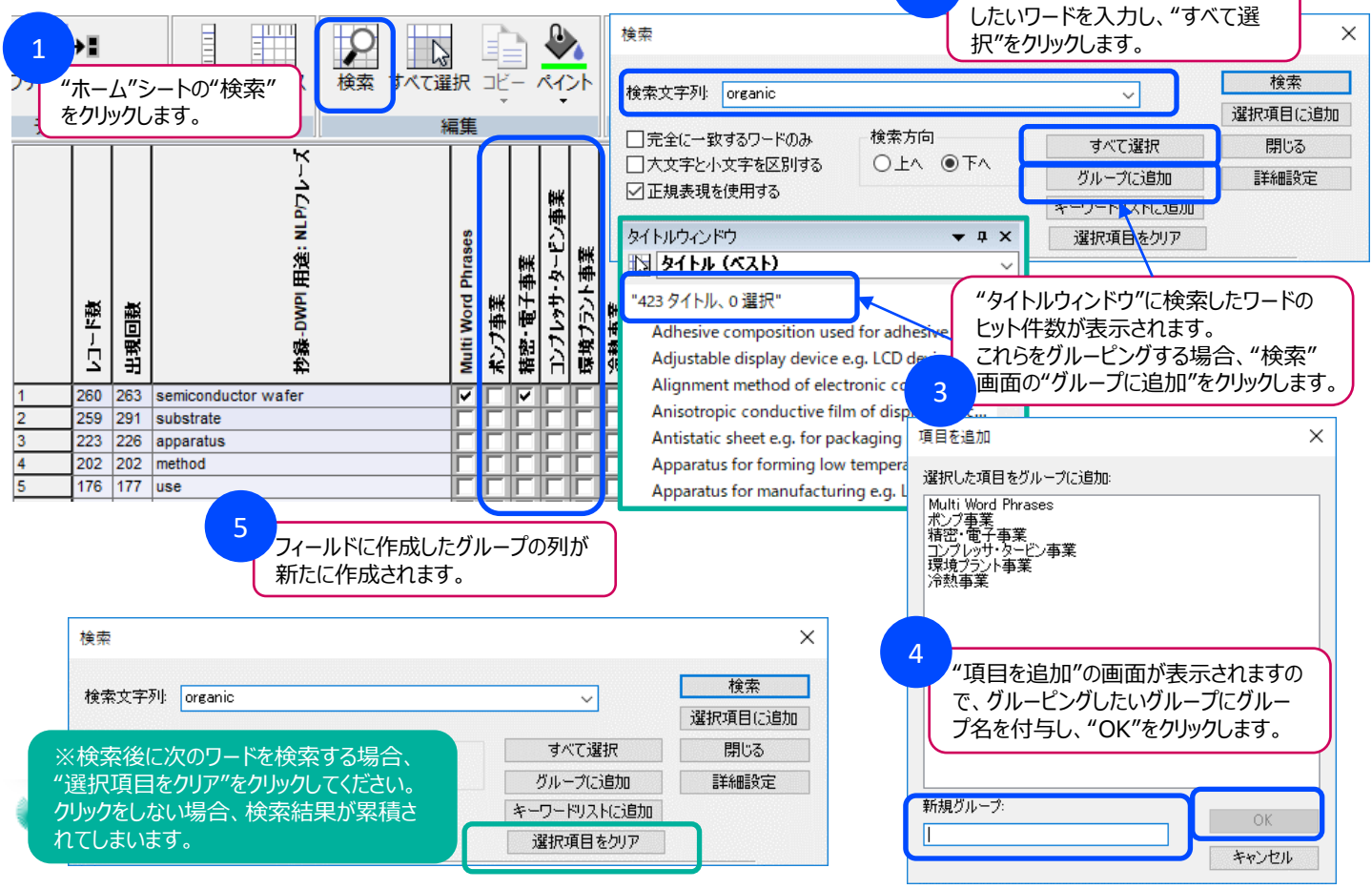
Derwent™

グルーピング　項目をまとめてグループ化します。

①項目でグルーピング



②ワード検索でグルーピング



Derwent Data Analyzer

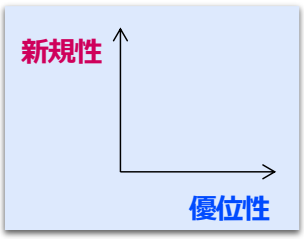
解析軸を使った分析

解析軸（分類コード）を設定し、分析対象の特許に解析軸を付与すると、技術の深堀分析ができます。

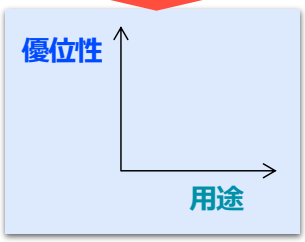
解析軸の設定

A:技術		B:用途		C:課題	
解析軸		解析軸		解析軸	
A01	視覚	B01	ゲーム	C01	コスト
A02	…	B02	医療	C02	…

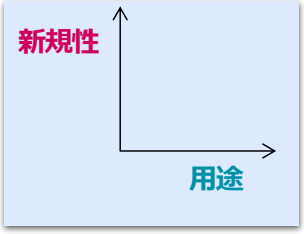
マトリクス分析



・どんな技術がどんな利点を生むか
・どんな問題に対処するためにどんな技術が生まれているか？



・どんな改善を行った発明が、どんな用途に活かされているか？



・どんな新規発明がどんな用途に活かされているか？
・どの用途に使うためには、どんな技術が必要なのか？

DDAでは、DWPI抄録をインポートすることができ、さらに文章のフレーズ分解ができるので、解析軸の分類条件のキーワードでのグルーピングが容易になり、解析軸コードの付与が効率よく行えます。

統一言語（英語）、統一フォーマットで新規性、用途、優位性とカテゴリごとにまとめられているDWPI抄録は、解析軸の設定にとても有用です。

transmitting notification to receiver

DWPI抄録

新規性

技術的な特徴は・・・

The device has an operable door opening system (4) connected with communication interfaces for transmitting an authentication and an authorization to deliver a delivery. A camera monitors a predetermined area in front of a shop (2) of a receiver. A noise sensor acoustically monitors an entrance door of the shop when the entrance door is unlocked. A control unit (5) generates a notification and transmits the notification to the receiver until the entrance door is locked. The camera is activated in a predetermined time window.

用途

利用用途は・・・

Device for delivering a delivery outside business hours of a recipient e.g. shop and retail store, by utilizing a delivery vehicle or electric vehicle.

優位性

優位性、発明の効果は・・・

The device indicates alternative delivery address, so that delivery can be delivered quickly and delivery time and associated costs of the delivery can be reduced. The device reduces traffic obstructions at night and risk of co

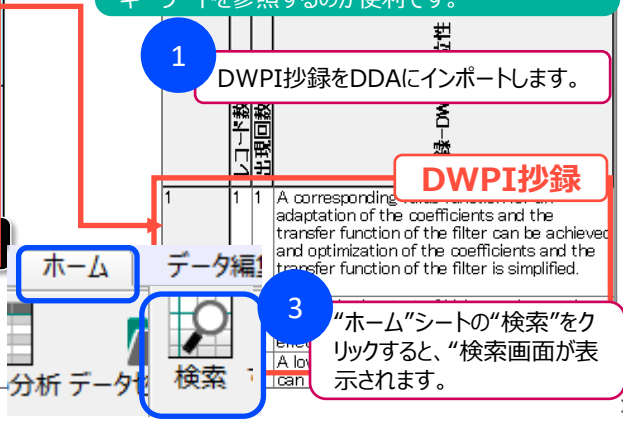
Derwent World Patents Index

A:技術（新規性）

解析軸		分類条件
A01	視覚	“Vision” **OR** “eye”を含む
A02	聴覚	“Hearing” **OR** “audition” を含む
A03	触覚	“Tactile” O
A04	味覚	“Taste” OR
A05	嗅覚	“Smell” OR

※解析軸、分類条件の設定のアイディアがない時は、Derwent Innovationのテーマスケープのキーワードを参照するのが便利です。

1 DWPI抄録をDDAにインポートします。



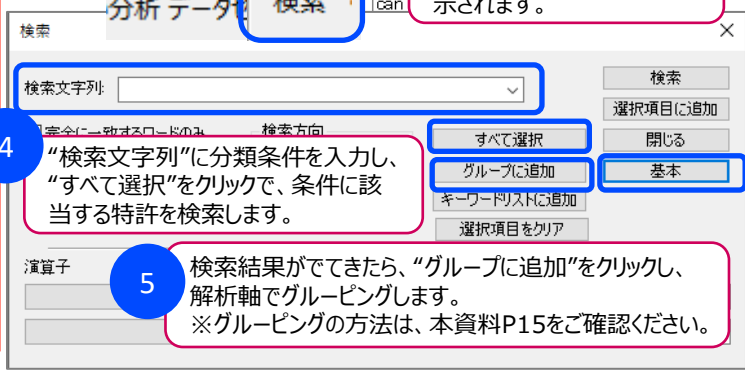
3 “ホーム”シートの“検索”をクリックすると、“検索画面が表示されます。

2 DWPI抄録をfフレーズ分解します。
※フレーズ分解の方法は本資料P14をご確認ください。

解析軸付与

フレーズ

レコード	出現回	抄録	A01:リチウムイオン	A02:有機EL	A03:太陽電池	A04:回路基板	A05:マグネット
1073	4	4	lithium metal battery	✓				
1074	4	4	lithium-ion cell	✓				
1075	4	4	lithium-ion secondary battery (claimed)	✓				
1076	4	4	local area network					
1077	4	4	magnetic disk drive					✓
1078	4	4	magnetic memory (claimed)					✓
1079	4	4	magnetic powder					✓
1080	4	4	magnetic stack					✓
1081	4	4	magnetic tunnel junction element					✓
1082	4	4	magnetoresistive RAM					✓
1083	4	4	magnetoresistive random access memory					✓

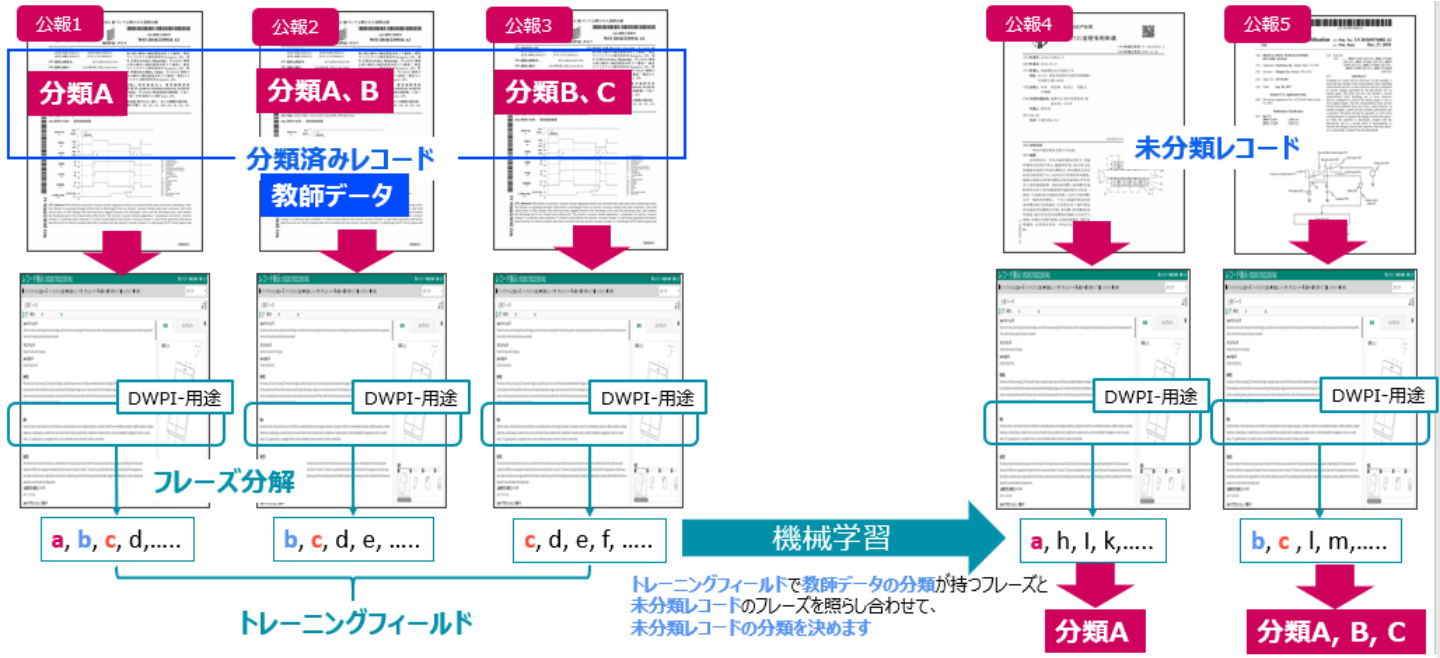


4 “検索文字列”に分類条件を入力し、“すべて選択”をクリックで、条件に該当する特許を検索します。

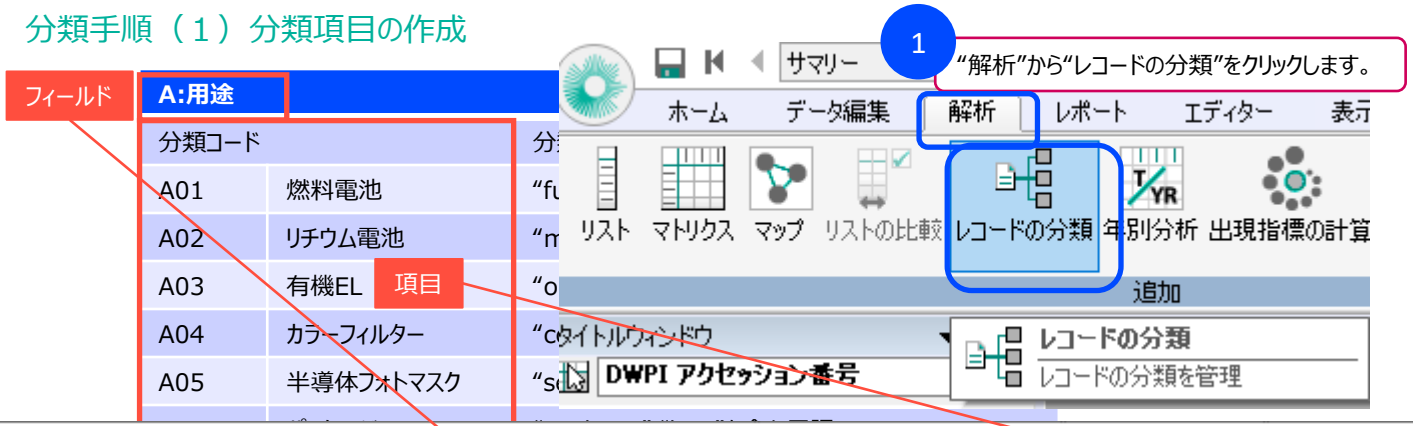
5 検索結果がでてきたら、“グループに追加”をクリックし、解析軸でグルーピングします。
※グルーピングの方法は、本資料P15をご確認ください。

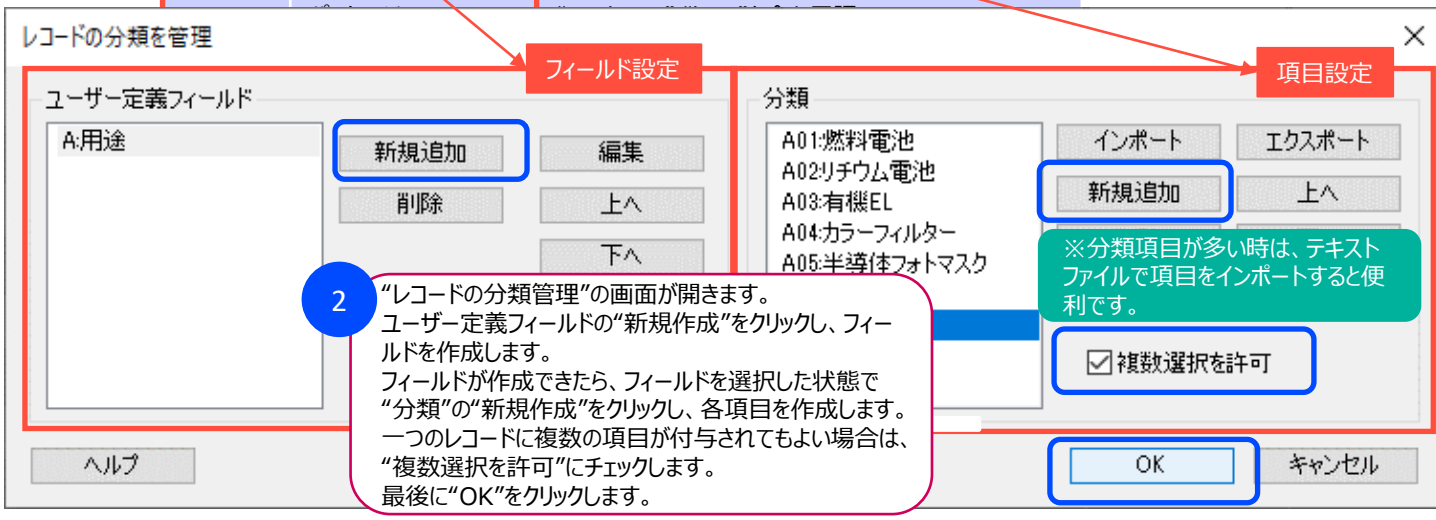
自動分類①

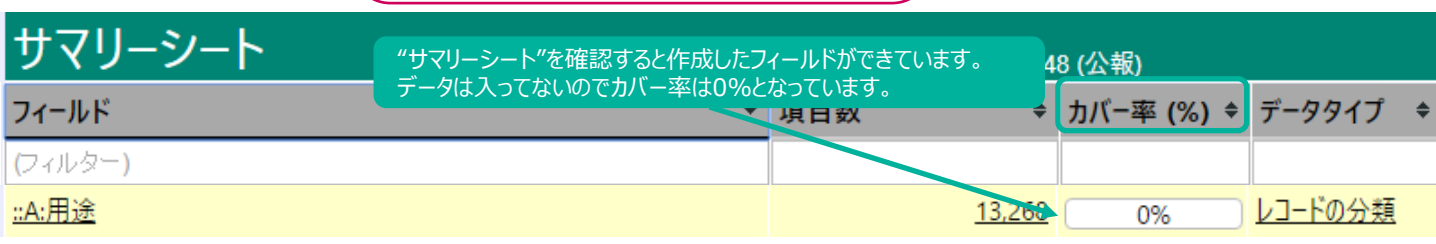
自動分類とは、ユーザーが作成した分類項目を一部のレコードに手動で振り分け、その分類傾向をDDAが機械学習し、残りのレコードを自動で分類する機能です。



分類手順（１）分類項目の作成







自動分類②

分類手順（２）教師データの作成（分類項目の付与）

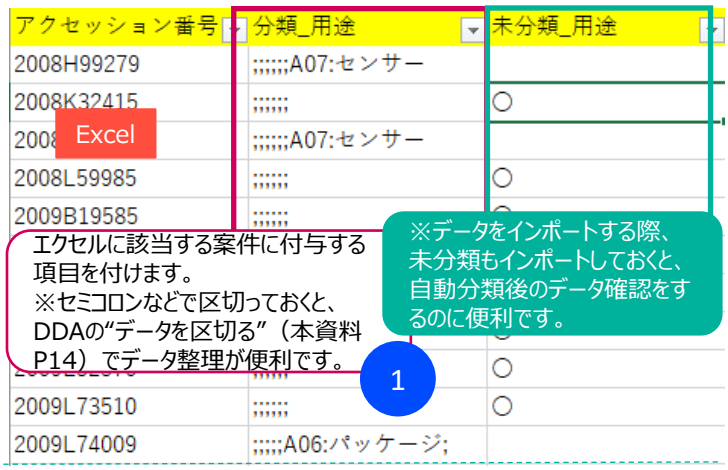
①手動で分類項目を付与する場合

1 タイトルウィンドウにアクセッション番号など公報の一覧を表示します。分類を付ける公報を選択し、右クリックします。

2 “レコードを分類”を選択します。

3 作成した分類項目がでてくるので該当する項目にチェックをいれます。

②分類項目を付与したファイル（Excel）をアップする場合

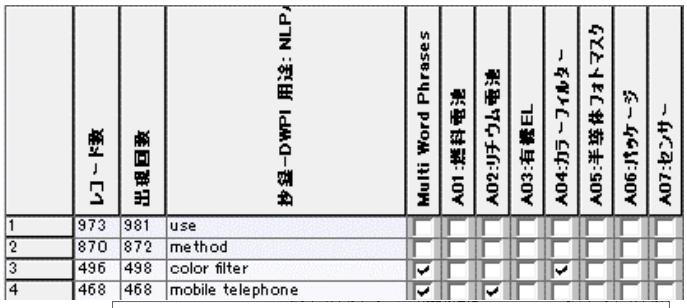


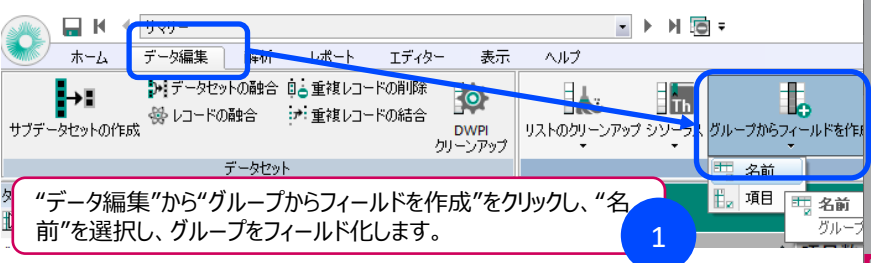
エクセルに該当する案件に付与する項目を付けます。
※セミコロンなどで区切っておくと、DDAの“データを区切る”（本資料P14）でデータ整理が便利です。

1

※データをインポートする際、未分類もインポートしておくと、自動分類後のデータ確認をするのに便利です。

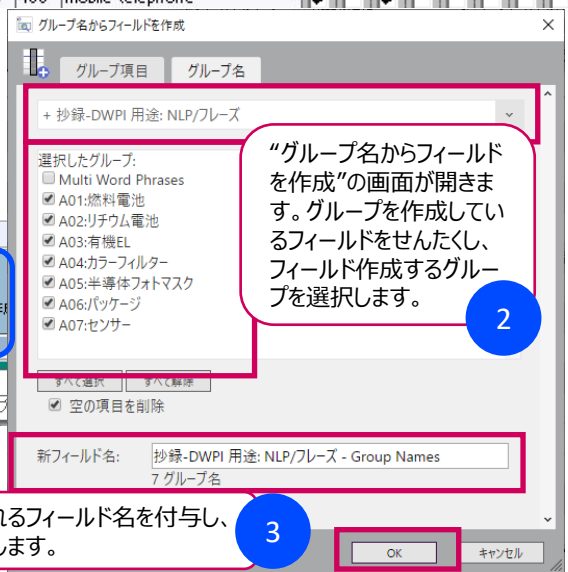
③グルーピングしたものを分類項目にする場合





“データ編集”から“グループからフィールドを作成”をクリックし、“名前”を選択し、グループをフィールド化します。

1



“グループ名からフィールドを作成”の画面が開きます。グループを作成しているフィールドをせんたくし、フィールド作成するグループを選択します。

2

新規に作成されるフィールド名を付与し、“OK”をクリックします。

3

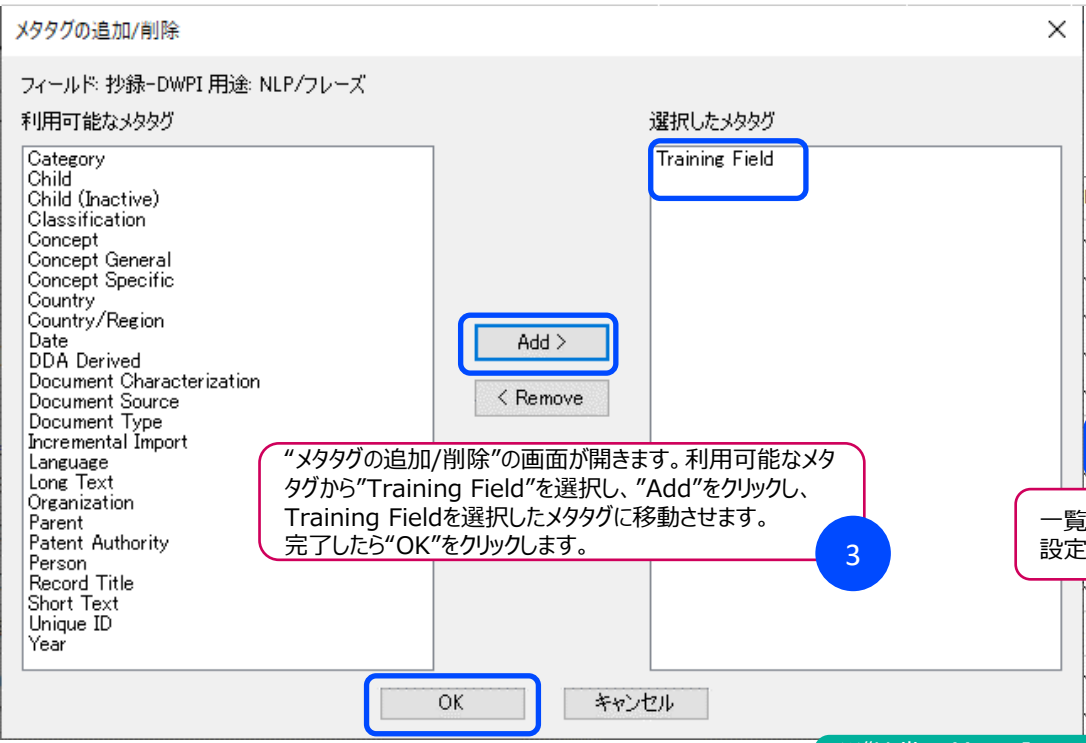
※②，③で教師データを作成する場合、教師データの分類項目と本資料P17の“分類手順（１）分類項目の作成”で作成した項目名は完全一致するようにしてください。

自動分類③ 分類手順（３）トレーニングフィールドの設定

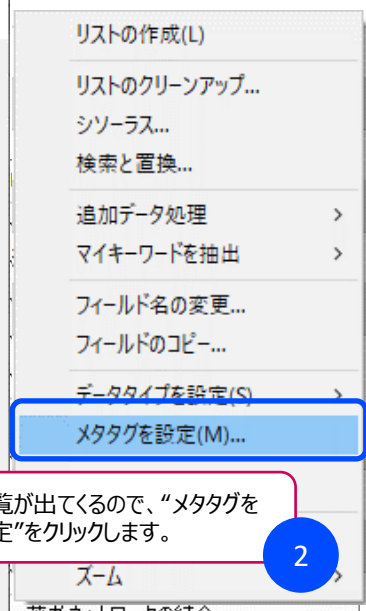
サマリーシート

サマリーシートからトレーニングフィールドに設定するフィールドのメタタグの箇所にカーソルをあわせ、右クリックします。 1

フィールド	項目数	カバー率 (%)	データタイプ	メタタグ
(フィルター)				
分類_用途: 区切る/セミコロン	7	32%		トレーニングフィールド



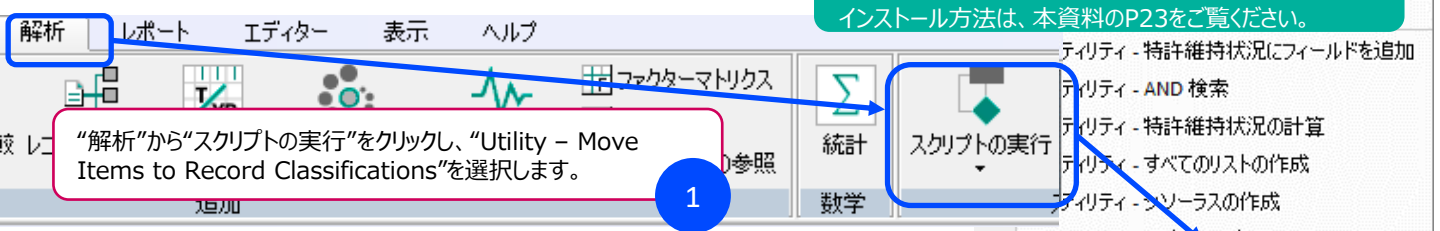
“メタタグの追加/削除”の画面が開きます。利用可能なメタタグから”Training Field”を選択し、”Add”をクリックし、Training Fieldを選択したメタタグに移動させます。
完了したら“OK”をクリックします。 3



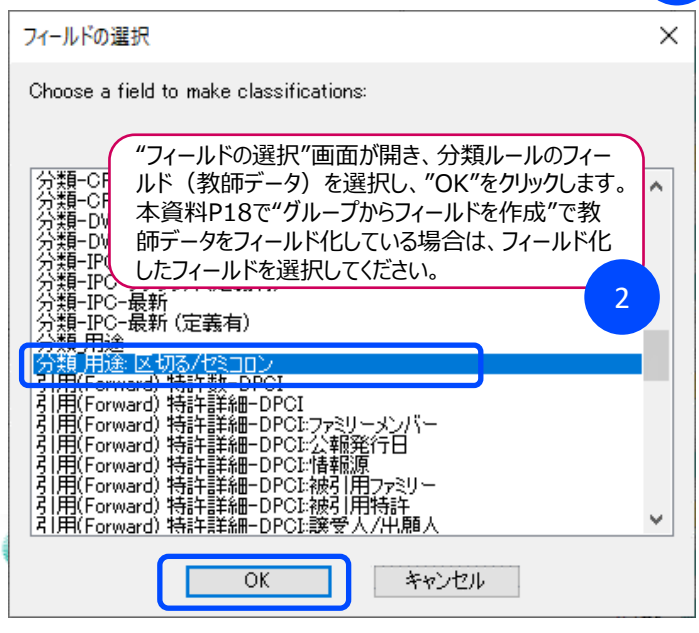
一覧が出てくるので、“メタタグを設定”をクリックします。 2

分類手順（4）分類対象のフィールドの設定

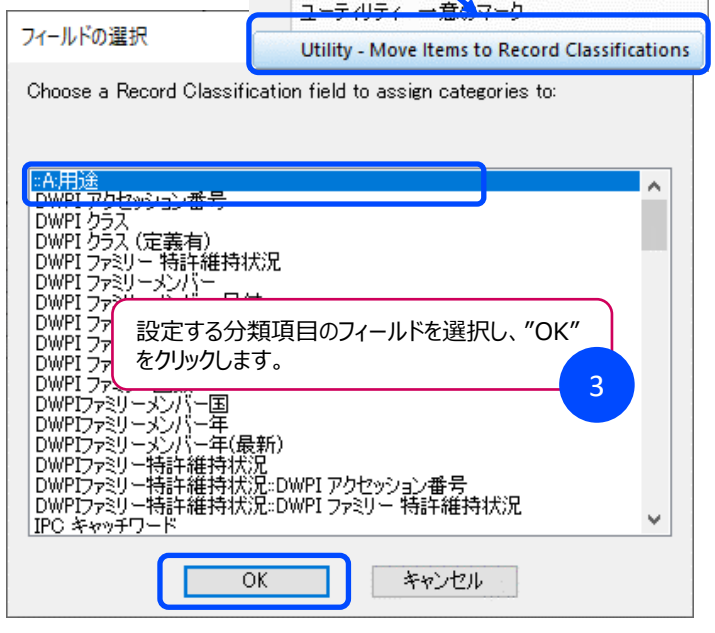
※”Utility-Move Items to Classifications”が見当たらない場合はスクリプトをインストールする必要があります。インストール方法は、本資料のP23をご覧ください。



“解析”から“スクリプトの実行”をクリックし、“Utility – Move Items to Record Classifications”を選択します。 1



“フィールドの選択”画面が開き、分類ルールのフィールド（教師データ）を選択し、”OK”をクリックします。
本資料P18で”グループからフィールドを作成”で教師データをフィールド化している場合は、フィールド化したフィールドを選択してください。 2



設定する分類項目のフィールドを選択し、”OK”をクリックします。 3

自動分類④（５）自動分類の実施

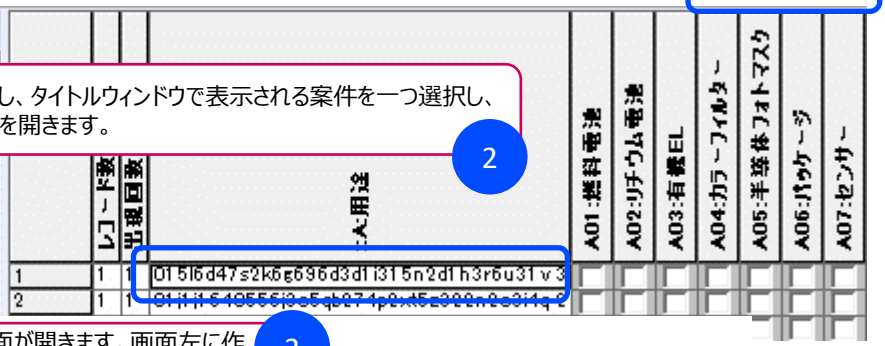
サマリーシート

“（２）教師データの作成”で分類フィールドに教師データの分類を設定したので、分類項目のカバー率は、0%から増えていることを確認し、分類フィールドを開きます。 1

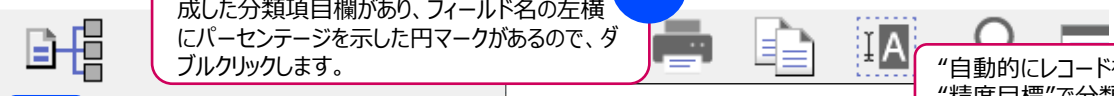
フィールド	項目数	カバー率 (%)	データタイプ
(フィルター)			
::A:用途	13,268	32%	レコードの分類

データを選択し、タイトルウィンドウで表示される案件を一つ選択し、レコードビューを開きます。 2

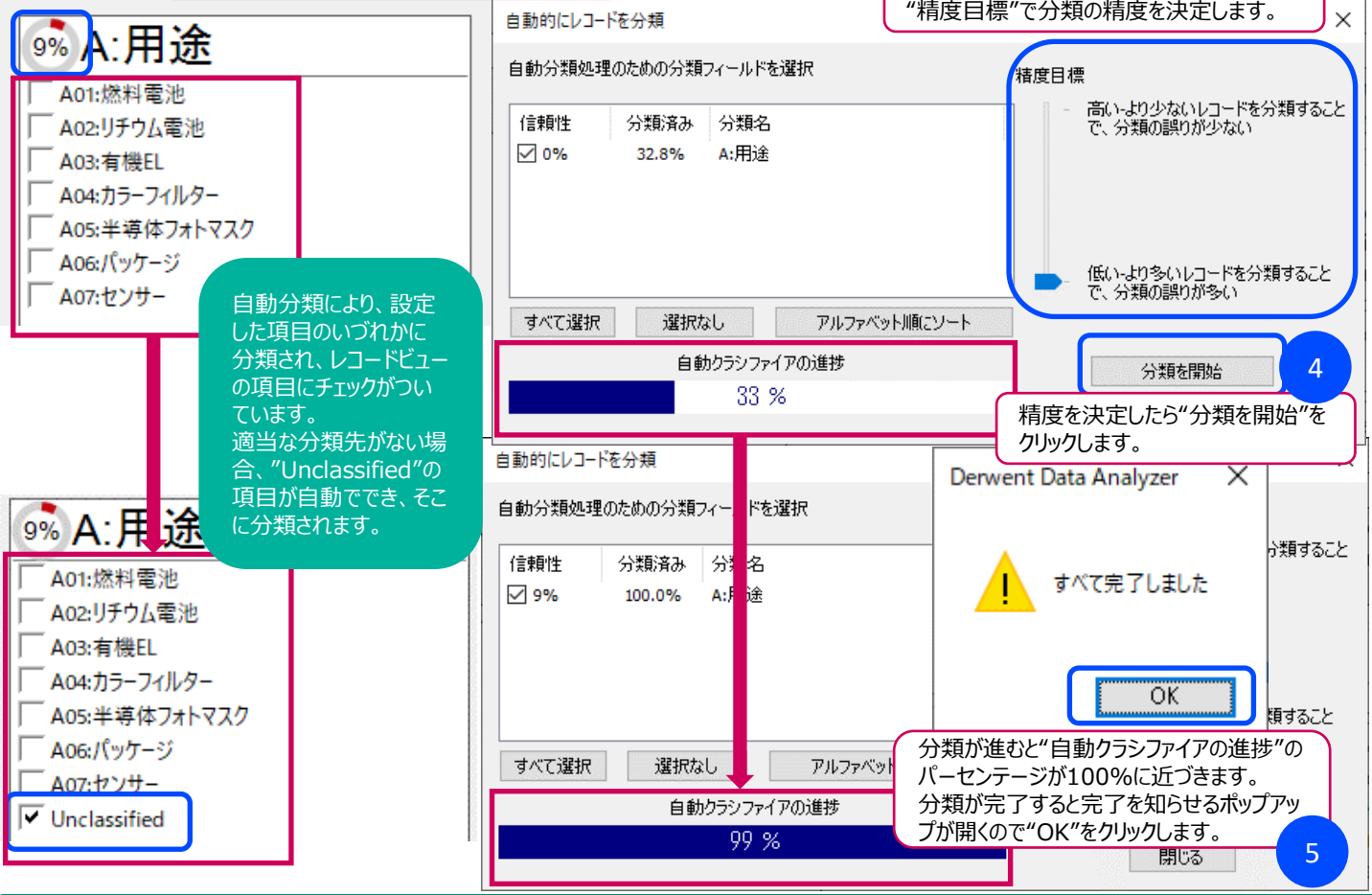
タイトルウィンドウ
DWPI アクセッション番号
"1 タイトル、0 選択"
2012B19280



“レコードビュー”画面が開きます。画面左に作成した分類項目欄があり、フィールド名の左横にパーセンテージを示した円マークがあるので、ダブルクリックします。 2



“自動的にレコードを分類”画面が開きます。
“精度目標”で分類の精度を決定します。 3



精度を決定したら“分類を開始”をクリックします。 4

自動分類により、設定した項目のいづれかに分類され、レコードビューの項目にチェックがついています。
適当な分類先がない場合、”Unclassified”の項目が自動でてき、そこに分類されます。

分類が進むと“自動クラシファイアの進捗”のパーセンテージが100%に近づきます。
分類が完了すると完了を知らせるポップアップが開くので“OK”をクリックします。 5

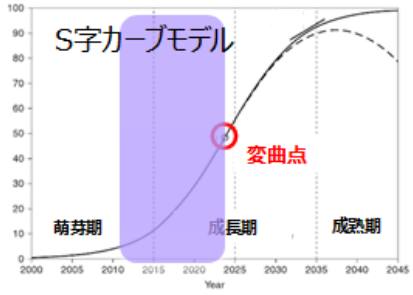
サマリーシート

サマリーシートの分類項目のフィールドは、自動分類により未分類にも項目が付与されたことから、カバー率が増えています。

フィールド	項目数	カバー率 (%)	データタイプ
(フィルター)			
::A:用途	13,268	100%	レコードの分類

出現指標 – Emergence Indicator (EI) -

EIとは、Derwent Innovation またはWeb of Scienceのデータを利用し、兆しのあるものをスコア化する機能です。



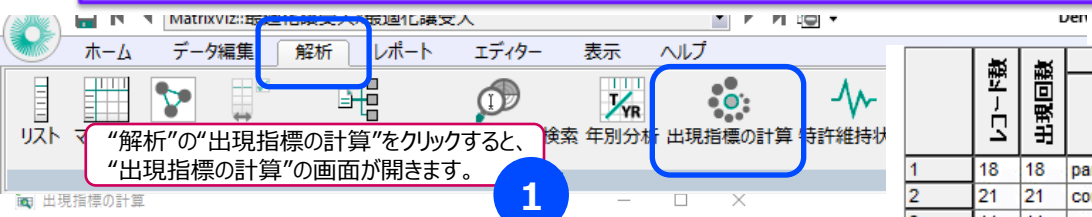
新規技術の開発・導入した場合、費用と収益の関係性は、**S字カーブモデル**を描くとされています。
このS字カーブモデルの**変曲点に達する前**に**新規技術の出現**を見出すことは困難です。

Emergence Indicator(EI) –出現指標

クラリベイトでは、技術の出現に関連する以下の**４つの属性**を見出しました。
この属性を見出す方法は、**特許出願**された**独自の技術**です。（WO2018/089271A1）
４つの属性の**過去10年間の用語、フレーズ**をトラッキングし、アルゴリズムでこれらの用語を**スコア化する機能**が**EI**です。

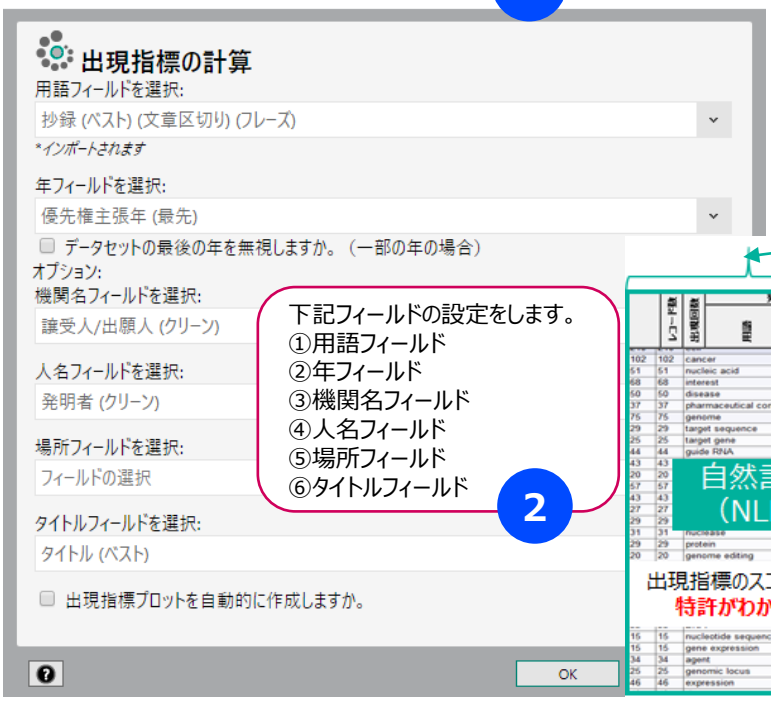
- **Novelty 新規性**：新しい用語、キーワード
- **Persistence 持続性**：技術の発生から消滅までの期限
- **Community 関係性**：発明者などの人名、組織
- **Growth 成長度**：用語、フレーズの使用頻度

新規技術の出現



“解析”の“出現指標の計算”をクリックすると、“出現指標の計算”の画面が開きます。

1

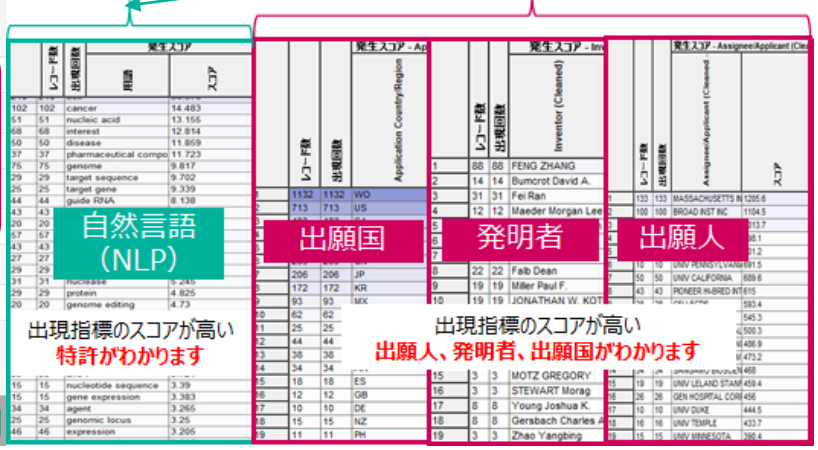


下記フィールドの設定をします。
①用語フィールド
②年フィールド
③機関名フィールド
④人名フィールド
⑤場所フィールド
⑥タイトルフィールド

2

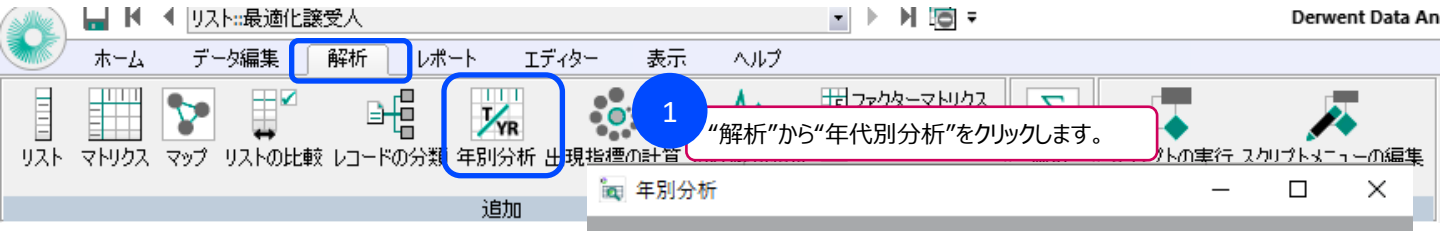
	レコード数	出現回数	発生スコア 用語	スコア
1	18	18	parking lot	6.626
2	21	21	common-rail injector	4.003
3	11	11	engine compartment	3.415
4	10	10	rotation angle sensor	3.415
				3.38
				3.275
				3.2
				3.053
9	16	16	determining position	2.739

出現指標のスコアは、オプションフィールドのスコアに**影響します**

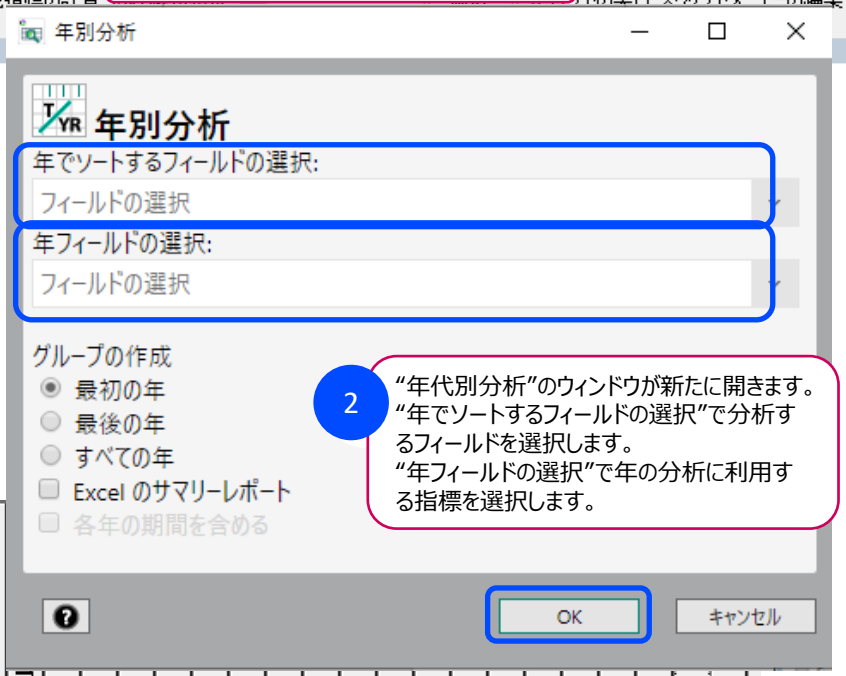


年代別分析

年代別分析により、どのようなキーワードが近年使われているのか、いつ頃登場したのかなどを把握します。

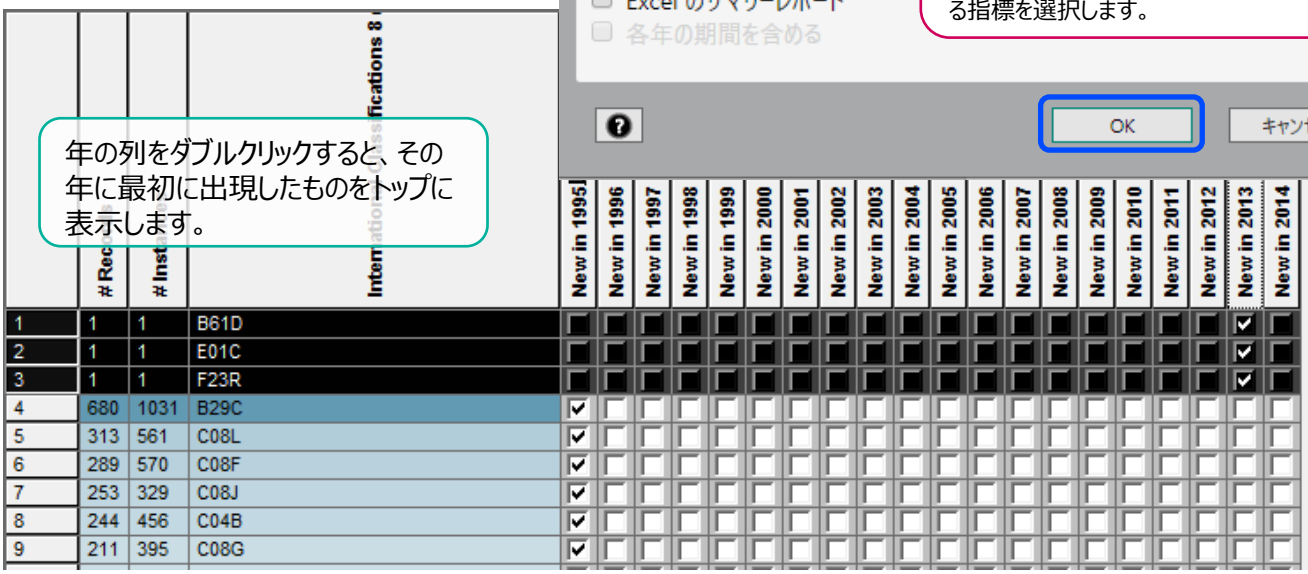


1 “解析”から“年代別分析”をクリックします。



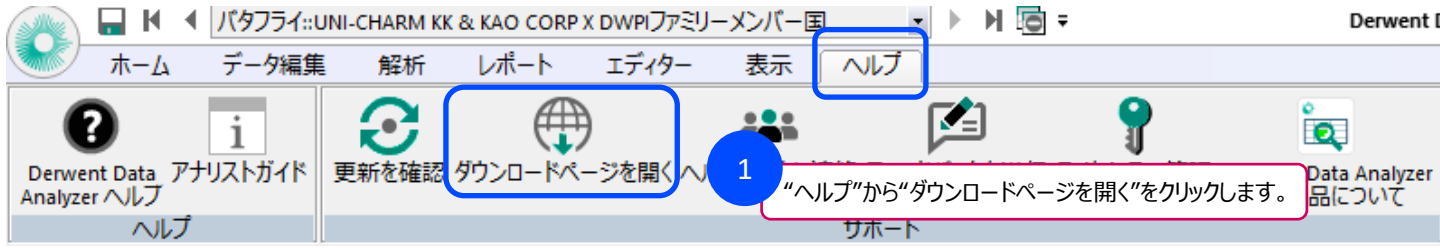
2 “年代別分析”のウィンドウが新たに開きます。
“年でソートするフィールドの選択”で分析するフィールドを選択します。
“年フィールドの選択”で年の分析に利用する指標を選択します。

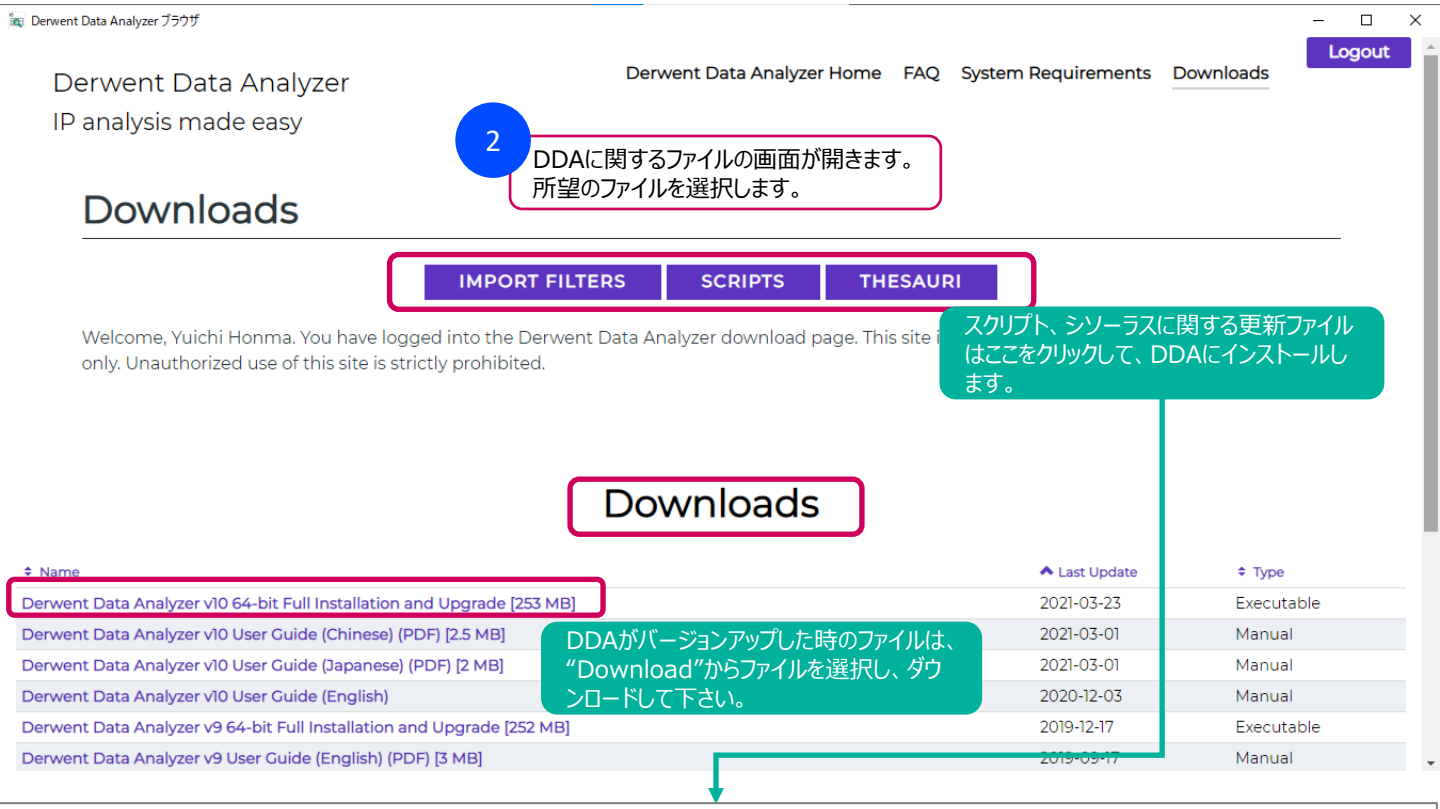
年の列をダブルクリックすると、その年に最初に出現したものをトップに表示します。

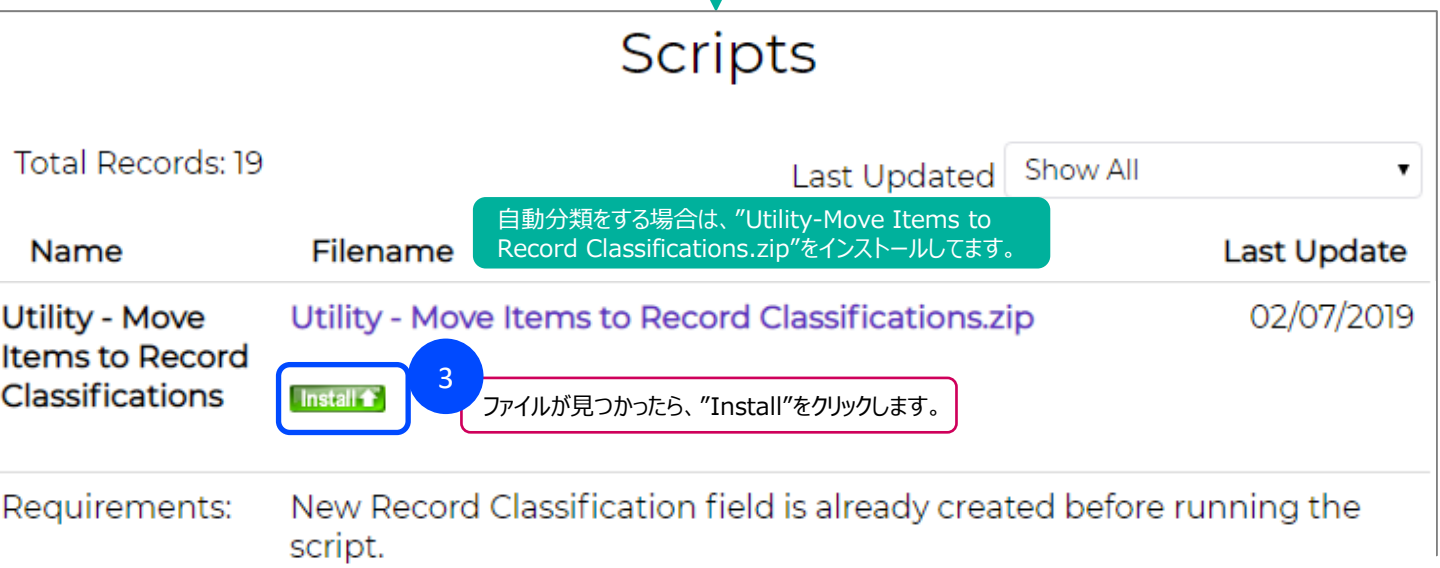


	# Rec	# Inst	Intern	New in 1995	New in 1996	New in 1997	New in 1998	New in 1999	New in 2000	New in 2001	New in 2002	New in 2003	New in 2004	New in 2005	New in 2006	New in 2007	New in 2008	New in 2009	New in 2010	New in 2011	New in 2012	New in 2013	New in 2014
1	1	1	B61D																			☑	
2	1	1	E01C																			☑	
3	1	1	F23R																			☑	
4	680	1031	B29C	☑																			
5	313	561	C08L	☑																			
6	289	570	C08F	☑																			
7	253	329	C08J	☑																			
8	244	456	C04B	☑																			
9	211	395	C08G	☑																			

更新ファイルのダウンロード







Derwent製品のサポート体制

製品サポート
・ユーザーマニュアル / サポート動画

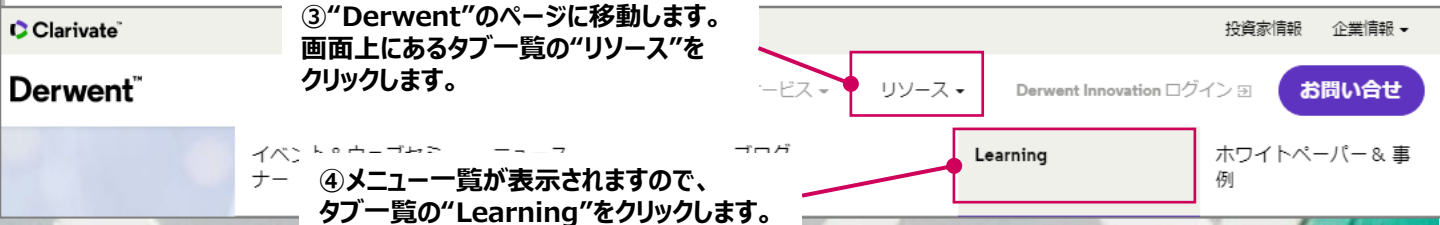
使い方を説明したマニュアルや動画サイトをご用意しております。是非、ご利用ください。

サポート動画

サポートサイトへのアクセス方法

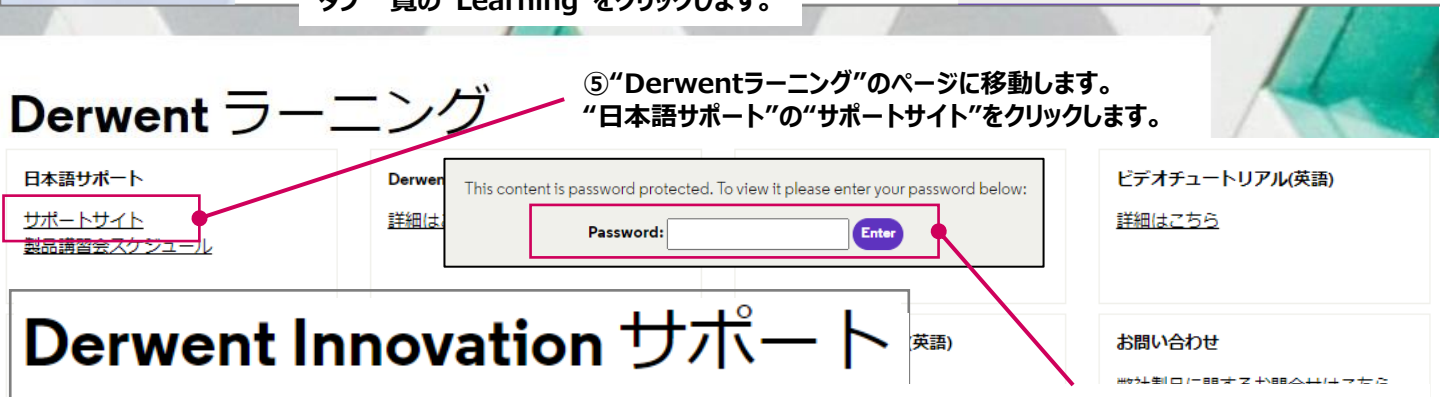
①クラリベイトのHPの画面上にあるタブ一覧の“ブランド”をクリックします。

② クラリベイトが取り扱う製品ブランドの一覧が表示されますので、“Derwent”をクリックします。

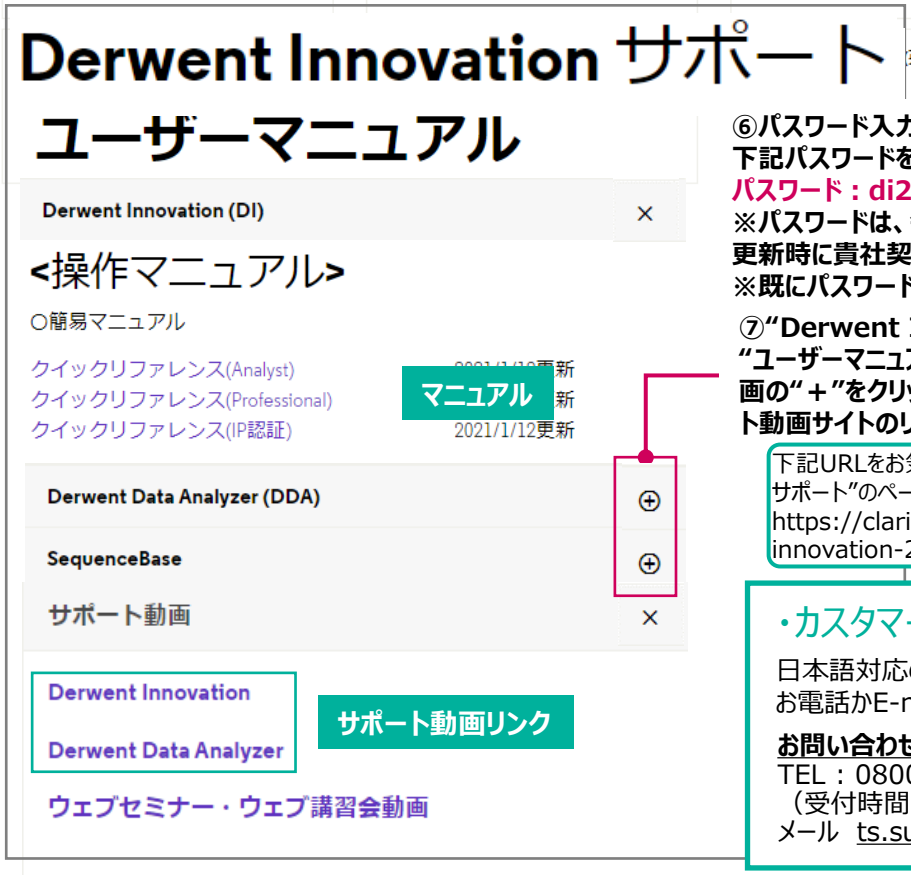


③“Derwent”のページに移動します。画面上にあるタブ一覧の“リソース”をクリックします。

④メニュー一覧が表示されますので、タブ一覧の“Learning”をクリックします。



⑤“Derwentラーニング”のページに移動します。“日本語サポート”の“サポートサイト”をクリックします。



⑥パスワード入力画面に移動します。
下記パスワードを入力し、“Enter”をクリックしてください。
パスワード：di2022
※パスワードは、毎年更新されます。
更新時に貴社契約窓口にご連絡させていただきます。
※既にパスワード入力を行っている場合は、⑤は省略されます。

⑦“Derwent Innovationサポート”サイトに移動します。“ユーザーマニュアル”のセクションで該当の製品、サポート動画の“＋”をクリックすると、マニュアル一覧、各製品のサポート動画サイトのリンクにアクセスできます。

下記URLをお気に入りにしていただくと、“Derwent Innovationサポート”のページに直接ジャンプできます。
https://clarivate.com/derwent/ja/learning/derwent-innovation-2/

・カスタマーケア

日本語対応のカスタマーケアサービスをご用意しております。
お電話かE-mailでお問い合わせください。

お問い合わせ先
TEL：0800-170-5577 無料/ 03-4589-3107
（受付時間：平日9:30～17:30）
メール ts.support.jp@clarivate.com